

第3章 公民

第1	教科目標，評価の観点及びその趣旨	公 - 1
第2	各科目の評価の観点の趣旨	公 - 1
第3	必履修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例	公 - 3
	現代社会	公 - 3
	倫理	公 - 15
	政治・経済	公 - 23
第4	単元の評価に関する事例	公 - 41
	現代社会	公 - 41
	倫理	公 - 52
	政治・経済	公 - 66

第3章 公民

第1 教科目標，評価の観点及びその趣旨

1 教科目標

広い視野に立って，現代の社会について主体的に考察させ，理解を深めさせるとともに，人間としての在り方生き方についての自覚を育て，民主的，平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。

2 評価の観点及び趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め，意欲的に課題を追究するとともに，民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加，協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし，社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに，社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断する。	諸資料を収集し，有用な情報を主体的に選択して活用するとともに，追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄を理解し，その知識を身に付けている。

第2 各科目の目標の観点の趣旨

	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代社会	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め，意欲的に課題を追究するとともに，社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加，協力する態度を身に付け，現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし，社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに，社会の変化や様々な立場，考え方を踏まえ公正に判断する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し，有用な情報を主体的に選択して活用して学び方を身に付けるとともに，追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や，学び方を理解し，その知識を身に付けている。
倫理	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め，人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに，これらにかかわる諸課題を探究する態度を身に付け，人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし，人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに，良識のある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し，有用な情報を主体的に選択して，これらを自己形成に資するよう活用するとともに，追究し考察した過程や	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を，生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し，人格の形成に生かす知識として身に付けている。

	る。		結果を様々な方法で適切に表現する。	
政治・経済	現代の政治，経済，国際関係に対する関心を高め，意欲的に課題を追究するとともに，国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考えようとする。	現代の政治，経済，国際関係にかかわる事柄から課題を見だし，その本質や特質，望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに，社会の変化や様々な立場，考え方を踏まえ公正に判断する。	現代の政治，経済，国際関係にかかわる諸資料を様々なメディアを通して収集し，有用な情報を主体的に選択し活用するとともに，追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代の政治，経済，国際関係に関する基本的な事柄や，本質，特質及び動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し，その知識を身に付けている。

第3 必履修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

現代社会

1 目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる事柄や学び方を理解し、その知識を身に付けている。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

現代社会においては、学習指導要領の内容(1)については大項目を内容のまとめりとし、内容(2)については中項目(例:「ア 現代の社会生活と青年」などの中項目)を内容のまとめりとして、これらごとに評価規準を作成した。

(1) 「(1) 現代に生きる私たちの課題」

【学習指導要領の内容】

現代社会の諸問題について自己とのかかわりに着目して課題を設け、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追究する学習を通して、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚させる。

【(1)「現代に生きる私たちの課題」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代社会の諸問題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、いかに生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚している。	現代社会の諸問題について自己とのかかわりに着目して課題を見だし、多面的・多角的に考察し、いかに生きるかについて社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	現代社会の諸問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択して活用し、学び方の技能を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の諸問題の現状や問題点、本質及び学び方について理解し、その知識を身に付けている。

【(1)「現代に生きる私たちの課題」の評価規準の具体例】

	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
地球	・地球環境問題に対する関心が高まっている	・地球環境問題について自己とのかかわり	・地球環境問題に関する諸資料を様々なメ	・地球環境問題は、人間の様々な活動が自然環

環境問題	<ul style="list-style-type: none"> る。 地球環境問題について自己とのかかわりに着目して設定した課題を意欲的に追究している。 地球環境問題について自己の在り方生き方と関連させながら考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> に着目して課題を見いだしている。 地球環境問題について環境保全をどう図っていくかを多面的・多角的に考察している。 地球環境問題に対する国際的な取組や協力、自らの生活の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ディアを通して収集している。 収集した資料の中から地球環境問題について設定した課題を追究する学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 課題の設定の仕方、統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法を身に付けている。 地球環境問題について設定した課題を追究し考察した過程や結果を、レポートや報告書にまとめたり、発表などを行ったりして表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 境への負荷を増加させたことによる地球環境の汚染や破壊の問題であることを理解し、その知識を身に付けている。 地球環境問題の生じる背景や問題点を追究する観点として、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点があることを理解し、その知識を身に付けている。
資源・エネルギー問題	<ul style="list-style-type: none"> 資源・エネルギー問題に対する関心が高まっている。 資源・エネルギー問題について自己とのかかわりに着目して設定した課題を意欲的に追究している。 資源・エネルギー問題について自己の在り方生き方と関連させながら考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 資源・エネルギー問題について自己とのかかわりに着目して課題を見いだしている。 資源・エネルギーの消費・利用について多面的・多角的に考察している。 資源・エネルギー問題に対する自らの生活の在り方や価値観について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> 資源・エネルギー問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 収集した資料の中から資源・エネルギー問題について設定した課題を追究する学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 課題の設定の仕方、統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法を身に付けている。 資源・エネルギー問題について設定した課題を追究し考察した過程や結果を、レポートや報告書にまとめたり、発表などを行ったりして表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 資源は有限であることについて理解し、その知識を身に付けている。 資源やエネルギーの開発・利用の在り方や新エネルギーの開発について、世界の国々の間、様々な立場で、それぞれの考え方があることに気付き、その知識を身に付けている。 資源・エネルギー問題の生じる背景や問題点を追究する観点として、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点があることを理解し、その知識を身に付けている。
科学技術の発達と生命	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発達と生命の問題に対する関心が高まっている。 科学技術の発達と生命の問題について自己とのかかわりに着目して設定した課題を意欲的に追究している。 科学技術の発達と生命 	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発達と生命の問題について自己とのかかわりに着目して課題を見いだしている。 科学技術の発達に伴う生命の考え方の変化について多面的・多角的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発達と生命の問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 収集した資料の中から科学技術の発達と生命の問題について設定した課題を追究する学習に役立つ情 	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の成果が社会生活のすみずみまで浸透するとともに、生命の在り方にまで影響が及んできたことについて理解し、その知識を身に付けている。 科学技術の発達と生命の問題が生じる背景や問題点を追究する観点

<p>の問題</p>	<p>命の問題について自己の在り方生き方と関連させながら考えようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術と生命の在り方について社会の変化や様々な立場，考え方を踏まえ公正に判断している。 	<p>報を主体的に選択して活用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の設定の仕方，統計や資料の見方，情報の検索や処理の仕方，簡単な社会調査の方法を身に付けている。 ・科学技術の発達と生命の問題について設定した課題を追究し考察した過程や結果を，レポートや報告書にまとめたり，発表などを行ったりして表現している。 	<p>として，倫理，社会，文化，政治，経済など様々な観点があることを理解し，その知識を身に付けている。</p>
<p>日常生活と宗教や芸術とのかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活と宗教や芸術とのかわりに対する関心が高まっている。 ・日常生活と宗教や芸術とのかわりについて自己とのかわりに着目して設定した課題を意欲的に追究している。 ・日常生活と宗教や芸術とのかわりについて自己の在り方生き方と関連させながら考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活と宗教や芸術とのかわりについて自己とのかわりに着目して課題を見いだしている。 ・真理や理想を追い求めることの意味や精神的な豊かさについて多面的・多角的に考察している。 ・信念や信仰，芸術などの人生における意義について社会の変化や様々な立場，考え方を踏まえ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活と宗教や芸術とのかわりに関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 ・収集した資料の中から日常生活と宗教や芸術とのかわりについて設定した課題を追究する学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 ・課題の設定の仕方，統計や資料の見方，情報の検索や処理の仕方，簡単な社会調査の方法を身に付けている。 ・日常生活と宗教や芸術とのかわりについて設定した課題を追究し考察した過程や結果を，レポートや報告書にまとめたり，発表などを行ったりして表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活における慣習の中に宗教的な意味をもつものがあることや，芸術が生まれた社会背景などについて理解し，その知識を身に付けている。 ・宗教や芸術が生まれる背景や人生における意味を追究する観点として，倫理，社会，文化，政治，経済など様々な観点があることを理解し，その知識を身に付けている。
<p>豊かな生活と福祉社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな生活と福祉社会に対する関心が高まっている。 ・豊かな生活と福祉社会について自己とのかわりに着目して設定した課題を意欲的に追究している。 ・豊かな生活と福祉社会について自己の在り方生き方と関連させながら考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな生活と福祉社会について自己とのかわりに着目して課題を見いだしている。 ・物質的，精神的，文化的に豊かな社会とはどのような社会かについて多面的・多角的に考察している。 ・住宅，社会資本，労働と余暇，地域社会の在り方，社会保障 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな生活と福祉社会に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 ・収集した資料の中から豊かな生活と福祉社会について設定した課題を追究する学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 ・課題の設定の仕方，統計や資料の見方，情報の検索や処理の 	<ul style="list-style-type: none"> ・国や地方公共団体が社会保障制度を充実させることの必要性について理解し，その知識を身に付けている。 ・福祉社会における自助努力の必要性について理解し，その知識を身に付けている。 ・豊かな生活と福祉社会が求められる背景や豊かな社会とはどのような社会かを追究する観点として，倫理，社会，

	制度の在り方などについて社会の変化や様々な立場，考え方を踏まえ公正に判断している。	仕方，簡単な社会調査の方法を身に付けている。 ・豊かな生活と福祉社会について設定した課題を追究し考察した過程や結果を，レポートや報告書にまとめたり，発表などを行ったりして表現している。	文化，政治，経済など様々な観点があることを理解し，その知識を身に付けている。
--	---	---	--

(2) 「(2) 現代の社会と人間としての在り方生き方」

【学習指導要領の内容】

現代社会について多様な角度から理解させるとともに，青年期の意義，経済活動の在り方，政治参加，民主社会の倫理，国際社会における日本の果たすべき役割などについて自己とのかかわりに着目して考えさせる。

- ア 現代の社会生活と青年
- イ 現代の経済社会と経済活動の在り方
- ウ 現代の民主政治と民主社会の倫理
- エ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割

「(2) ア 現代の社会生活と青年」

【学習指導要領の内容】

大衆化，少子高齢化，高度情報化，国際化など現代社会の特質と社会生活の変化について理解させる。また，生涯における青年期の意義と自己形成の課題について考えさせるとともに，自己実現と職業生活，社会参加に触れながら，現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。

【「(2) ア 現代の社会生活と青年」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の社会生活と青年の生き方に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，現代社会に生きる青年として自己の生き方について考えようとしている。	現代の社会生活の諸事象から課題を見だし，生涯における青年期の意義と自己形成の課題について多面的・多角的に考察し，現代社会における青年の生き方について社会の変化や様々な立場，考え方を踏まえ公正に判断している。	現代の社会生活に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し，学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに，生涯における青年期の意義と自己形成の課題，現代社会における青年の生き方を追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の特質と社会生活の変化，青年期，社会参加などについて理解し，その知識を身に付けている。

【「(2) ア 現代の社会生活と青年」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の特質と社会生活の変化や青年の生き方に対する関心が高まっている。 ・生涯における青年期の意義と自己形成の課題を意欲的に追究している。 ・現代の社会に生きる 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の特質と社会生活の変化や青年の生き方から課題を見いだしている。 ・生涯における青年期のもつ意義と自己形成の課題について自らの人生や進路選択とかかわらせながら 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の特質と社会生活の変化や青年の生き方に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 ・収集した資料の中から生涯における青年期のもつ意義と自己 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会においては，様々な組織が巨大化し人間関係が希薄化，孤立化するとともに，大量生産・大量消費により文化や行動様式が画一化する傾向があることについて理解し，その知識を身に付けてい

青年としていかに生きるかについて考えようとしている。

多面的・多角的に考察している。
・現代の社会に生きる青年としていかに生きるかについて社会生活の変化や様々な立場，考え方を踏まえ公正に判断している。

形成の課題，青年としていかに生きるかについての学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。
・生涯における青年期のもつ意義と自己形成の課題，青年としていかに生きるかについて追究し考察した結果を口頭や文章などで適切に説明している。

る。
・現代社会においては，少子化の進行と平均寿命の伸長による急速な人口の高齢化のみならず，労働力人口の減少，地域社会の変容，介護あるいは福祉などの課題があることについて理解し，その知識を身に付けている。
・現代社会においては，情報処理や伝達技術が高度化していることや，その影響について理解し，その知識を身に付けている。
・現代社会においては，個人情報や知的所有権などに対する情報モラルの確立が必要であることについて気付き，その知識を身に付けている。
・現代社会においては，国際的な相互依存関係の緊密化のみならず社会の急激な変化があることや，その影響について理解し，その知識を身に付けている。
・異なる文化をもつ国々への相互理解と協調の精神をもつことが大切であることを理解し，その知識を身に付けている。
・社会の急激な変化に伴って社会生活に変化が見られたことを理解し，その知識を身に付けている。
・青年期は親などへの依存を脱し，自らの生き方を多くの可能性の中から選択し社会生活に主体的に参加する中で自己を形成し，心理的，社会的な自立を遂げていく重要な時期であることについて理解し，その知識を身に付けている。
・望ましい職業観・勤労観について理解し，その知識を身に付けている。
・男女が均しく政治的，経済的，社会的及び文化的な利益を享受で

			<p>き，共に責任を担うべき男女共同参画社会を形成することが求められていることについて理解し，その知識を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活文化や伝統が生徒自身の価値観や生き方に与える影響について気付き，その知識を身に付けている。
--	--	--	--

「(2) イ 現代の経済社会と経済活動の在り方」

【学習指導要領の内容】

現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化，企業の働き，公的部門の役割と租税，金融機関の働き，雇用と労働問題，公害の防止と環境保全について理解させるとともに，個人と企業の経済活動における社会的責任について考えさせる。

【「(2) イ 現代の経済社会と経済活動の在り方」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の経済社会の諸事象に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，経済活動の在り方について考えようとしている。	現代の経済社会の諸事象から課題を見だし，個人と企業の経済活動における社会的責任などについて多面的・多角的に考察し，経済活動の在り方について社会の変化や様々な立場，考え方を踏まえ公正に判断している。	現代の経済社会に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し，学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに，個人と企業の経済活動における社会的責任や経済活動の在り方を追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化，企業の働き，公的部門の役割と租税，金融機関の働き，雇用と労働問題，公害の防止と環境保全について理解し，その知識を身に付けている。

【「(2) イ 現代の経済社会と経済活動の在り方」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 現代の経済社会における個人，企業や公的部門の経済活動に対する関心が高まっている。 個人や企業の経済活動における社会的責任について意欲的に追究している。 現代の経済社会における個人，企業や公的部門の経済活動の在り方について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の経済社会における個人，企業や公的部門の経済活動から課題を見だしている。 消費者，納税者としての個人の経済活動における社会的責任について多面的・多角的に考察している。 企業の経済活動における法的・社会的道義的責任について多面的・多角的に考察している。 現代の経済社会における個人，企業の経済活動の在り方につ 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の経済社会における個人，企業や公的部門の経済活動に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 収集した資料の中から個人や企業の社会的責任，経済活動の在り方などについての学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 個人や企業の経済活動における社会的責任，経済活動の在り方について追究し考察した結果を口頭や文章などで適切に説 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の重工業化，経済のソフト化・サービス化の進展，先端技術産業の発展は，技術革新に伴って進展したことについて理解し，その知識を身に付けている。 現代の企業は，生産を高め利潤を追求するだけでなく，雇用の促進や技術の開発などを通して地域社会や経済社会の発展に寄与する社会的役割をもつことを理解し，その知識を身に付けている。 公的部門は，国民生活の向上と福祉の充実の

	<p>いて社会の変化や消費者，生産者など様々な立場，考え方を踏まえ公正に判断している。</p>	<p>明している。</p>	<p>ために，民間部門では全くあるいは不十分にしか供給されない財やサービスを提供する役割，所得再分配や経済の安定化を図る役割があることを理解し，その知識を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・租税を中心とした公的負担の意義と必要性について理解し，その知識を身に付けている。 ・金融機関が資金の貸し手と借り手の間に立って資金を安全かつ有効に仲介することの意義について理解し，その知識を身に付けている。 ・金融の国際化や自由化による国民生活への影響について気付き，その知識を身に付けている。 ・終身雇用制や年功序列制の変化，中高年雇用やパートタイム労働の動向，労働保護立法の動向，労働組合の役割など近年の雇用と労働問題の動向を理解し，その知識を身に付けている。 ・公害防止と環境保全のためには，環境への負荷を少なくし健全な経済発展を図り，持続的発展が可能な社会を築くことが必要であることを理解し，その知識を身に付けている。 ・公害防止と環境保全のためには，現代文明と生活様式の在り方を見直すことが必要であることに気付き，その知識を身に付けている。 ・企業の経済活動における社会的な責任は，法的責任にとどまらず，環境保全や経済社会を担う責任ある組織として社会的道義的責任があることを理解し，その知識を身に付けている。
--	---	---------------	--

【学習指導要領の内容】

基本的人権の保障と法の支配，国民主権と議会制民主主義，平和主義と我が国の安全について理解を深めさせ，日本国憲法の基本的原則について国民生活とのかかわりから認識を深めさせるとともに，世論形成と政治参加の意義について理解させ，民主政治における個人と国家について考えさせる。また，生命の尊重，自由・権利と責任・義務，人間の尊厳と平等，法と規範などについて考えさせ，民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせる。

【「(2) ウ 現代の民主政治と民主社会の倫理」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の民主社会に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，民主社会における人間としての在り方生き方を考えとともに，自ら生きる倫理について自覚を深めている。	現代の民主社会の諸事象から課題を見だし，民主社会において求められる価値や民主政治を基礎付ける考え方などについて多面的・多角的に考察し，民主政治の在り方や民主社会における人間としての在り方について社会の変化や様々な立場，考え方を踏まえ公正に判断している。	現代の民主社会に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し，学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに，民主社会における価値や民主政治を基礎付ける考え方，民主政治の在り方や民主社会における人間としての在り方を追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	基本的人権の保障と法の支配，国民主権と議会制民主主義，平和主義と我が国の安全，日本国憲法の基本的原則，世論形成と政治参加の意義について理解し，その知識を身に付けている。

【「(2) ウ 現代の民主政治と民主社会の倫理」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 現代の民主政治と民主社会の倫理に対する関心が高まっている。 民主社会における，生命の尊重，自由・権利と責任・義務，人間の尊厳と平等，法と規範の意味を意欲的に追究している。 民主政治における個人と国家の在り方や民主社会に主体的に生きる人間の在り方について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の民主政治と民主社会の倫理から課題を見いだしている。 民主社会における，生命の尊重，自由・権利と責任・義務，人間の尊厳と平等，法と規範について多面的・多角的に考察している。 民主政治における個人と国家の在り方や民主社会に主体的に生きる人間の在り方について社会の変化や様々な立場，考え方を踏まえ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の民主政治と民主社会の倫理に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 収集した資料の中から生命の尊重，自由・権利と責任・義務，人間の尊厳と平等，法と規範及び個人と国家の在り方や民主社会に主体的に生きる人間の在り方などについての学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 生命の尊重，自由・権利と責任・義務，人間の尊厳と平等，法と規範及び個人と国家の在り方や民主社会に主体的に生きる人間の在り方を追究し考察した結果を口頭や文章などで適切に説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> 民主政治の究極の目標は，基本的人権の保障の充実，発展であることについて認識を深め，その知識を身に付けている。 法の支配とは，政治権力を民意に基づき人権の保障を目指す法の下に従属させ，為政者の恣意的支配を排除し人権保障を確保するものであることについて理解し，その知識を身に付けている。 議会制民主主義の意義と多数決の原理とその運用の在り方について理解し，その知識を身に付けている。 我が国が国会を中心とする様々な国民参政の方法を通じて国民主権が実現される仕組みになっていることについて理解し，その知識を身に付けている。 日本国憲法に定められている天皇の地位につ

いて、国民主権とのか
かわりから理解し、そ
の知識を身に付けてい
る。

- ・日本国憲法の平和主義と、我が国の安全が世界の平和の維持と不可分に関連していることについて理解し、その知識を身に付けている。
- ・民主政治は多様な諸個人の意見を基礎に運営されるため、世論形成及び国民の政治参加が大切であることを理解し、その知識を身に付けている。
- ・政治参加は国民の重要な権利であると同時に義務とも言えるものであることについて理解し、その知識を身に付けている。
- ・様々な社会的勢力関係が政治に及ぼす影響について理解し、その知識を身に付けている。
- ・民主政治の下では、国民は主権者であり、国家の行為に対しても最終的には国民自らが責任をもつことになることを理解し、その知識を身に付けている。
- ・生命の尊重は、現代社会において最も大切な価値であり、生命に対する尊重及び畏敬の精神をあらゆる生活の中に生かしていくことが、生活と福祉の向上を実現していくことになる点に気付き、その知識を身に付けている。
- ・自由や権利の行使は、同時に他人の自由や権利を侵害しないという制約を伴い、義務と責任を果たすことによって初めて社会的な関係の中で生かされることを理解し、その知識を身に付けている。
- ・人間の尊厳と平等は民主社会を基礎づける基本的な考え方であることを理解し、その知識を身に付けている。

		<ul style="list-style-type: none"> ・法は国家による組織化，制度化された強制という側面をもつことを特色とし，道徳，宗教などは主体的な個人の内面規律や自律，個の確立を重視することを特色としていることについて理解し，その知識を身に付けている。
--	--	---

「(2) エ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割」

【学習指導要領の内容】

世界の主な国の政治や経済の動向に触れながら，人権，国家主権，領土に関する国際法の意義，人種・民族問題，核兵器と軍縮問題，我が国の安全保障と防衛，資本主義経済と社会主義経済の変容，貿易の拡大と経済摩擦，南北問題について理解させ，国際平和や国際協力の必要性及び国際組織の役割について認識させるとともに，国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考えさせる。

【「(2) エ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
国際社会の動向や諸問題に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考えようとしている。	国際社会の動向や諸問題から課題を見だし，国際平和や国際協力の必要性及び国際組織の役割などについて多面的・多角的に考察し，国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について社会の変化や様々な立場，考え方を踏まえ公正に判断している。	国際社会の動向や諸問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し，学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに，国際平和や国際協力の必要性及び国際組織の役割や国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方を追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	人権，国家主権，領土に関する国際法の意義，人種・民族問題，核兵器と軍縮問題，我が国の安全保障と防衛，資本主義経済と社会主義経済の変容，貿易の拡大と経済摩擦，南北問題について理解し，その知識を身に付けている。

【「(2) エ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦終結後の国際社会の動向と国際政治や国際経済に関する諸問題に対する関心が高まっている。 ・国際政治や国際経済に関する諸問題及び国際平和や国際的な経済協力の必要性及び国際連合などの国際的な機構・組織の果たす役割について意欲的に追究してい 	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦終結後の国際社会の動向と国際政治や国際経済に関する諸問題から課題を見いだしている。 ・国際政治や国際経済に関する諸問題，国際平和や国際的な経済協力の必要性及び国際連合などの国際的な機構・組織の果たす役割について多面的・多角的に考察 	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦終結後の国際社会の動向と国際政治や国際経済に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 ・収集した資料の中から国際政治や国際経済に関する諸問題，国際平和や国際的な経済協力の必要性及び国際連合などの国際的な機構・組織の 	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦終結後，民族・地域紛争が多発する一方，国家間の結び付きが強まるとともに地域統合が進んだことや，自由貿易などの拡大を通して経済の国際化が進展し，新たな国際秩序形成の課題に直面していることについて理解し，その知識を身に付けている。 ・国際法は国際社会にお

る。

- ・国際社会における日本の政治的、経済的、社会的な責務と役割及び日本人の生き方について考えようとしている。

している。

- ・国際社会における日本の政治的、経済的、社会的な責務と役割及び日本人の生き方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。

果たす役割、国際社会における日本の政治的、経済的、社会的な責務と役割などについての学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。

- ・国際政治や国際経済に関する諸問題、国際平和や国際的な経済協力の必要性及び国際連合などの国際的な機構・組織の果たす役割、国際社会における日本の政治的、経済的、社会的な責務と役割を追究し考察した結果を口頭や文章などで適切に説明している。

いて主権国家相互の行動を規律し国際間の秩序を作り出す意義と役割があることについて理解し、その知識を身に付けている。

- ・基本的人権の保障は国境を越えた人類共通の課題であることや、人権に関する国際的な取り決めの意義について理解し、その知識を身に付けている。
- ・国家主権は、国際社会において相互に対等なものとして尊重されるが、国際的な平和の維持のために制限される場合があることについて理解し、その知識を身に付けている。
- ・国民の基本的な生活を保障し資源を確保する領域である領土に関する国際的な取組について理解し、その知識を身に付けている。
- ・人種や民族の違いが宗教や言語、国家主権などの問題と結び付いて、地域紛争や国際紛争に発展することがあることについて理解し、その知識を身に付けている。
- ・核兵器の開発、使用及び広範囲な配備が国際社会に及ぼした影響や国際連合を中心とする軍縮への取組について理解し、その知識を身に付けている。
- ・主権国家における安全保障の確保は何らかの方法で必要であることを理解し、その知識を身に付けている。
- ・日本国憲法の平和主義と関連させながら我が国の安全保障に向けて多角的な努力と防衛に関する基本的事項について理解し、その知識を身に付けている。
- ・生産手段の私有と自由競争を基本とする資本主義経済と、生産手段の公有と計画経済を基本とする社会主義経済が相互に影響し合っ

		<p>きたことについて理解し、その知識を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働力，資本，技術，情報などが地球規模で移動し，国際的な相互依存関係が緊密化していることについて理解し，その知識を身に付けている。 ・貿易の不均衡や農業，金融，流通など様々な分野の問題が外交上の問題となり経済摩擦が生じていることについて理解し，その知識を身に付けている。 ・為替相場の安定が国際経済の大きな課題となっていることに気付き，その知識を身に付けている。 ・南北問題について，発展途上諸国間の格差や累積債務の問題など多様化し複雑化している現状や，南北問題の解決への取組について理解し，その知識を身に付けている。 ・国際連合などをはじめとする国際的な機構・組織の果たす役割や非政府組織（NGO）による活動について理解し，その知識を身に付けている。 ・国際平和や国際協力の推進が国際政治の安定や世界経済の発展につながることに気付き，その知識を身に付けている。 ・様々な経済政策が国際的な規模で協議され実施される必要性が一層高まってきていることについて理解し，その知識を身に付けている。
--	--	--

倫理

1 目標

人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するよう活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準

倫理においては、学習指導要領の内容の中項目（例：「ア 青年期の課題と自己形成」などの中項目）を内容のまとめりとして、これらごとに評価規準を作成した。

(1) 「(1) 青年期の課題と人間としての在り方生き方」

【学習指導要領の内容】

自己の生きる課題とのかかわりにおいて、青年期の意義と課題を理解させるとともに、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、人間の存在や価値について思索を深めさせる。

ア 青年期の課題と自己形成

イ 人間としての自覚

ウ 国際社会に生きる日本人としての自覚

「(1) ア 青年期の課題と自己形成」

【学習指導要領の内容】

自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題を理解させ、豊かな自己形成に向けて、他者と共に生きる自己の生き方について考えさせる。

【「(1) ア 青年期の課題と自己形成」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
青年期の意義と課題に対する関心を高め、それを意欲的に探究し、他者と共に生きる自己の生き方について考えようとしている。	自らの体験や悩みを振り返ることから課題を見だし、それに基づいて青年期の意義と課題を多面的・多角的に考察し、豊かな自己形成に向けて探究するとともに、他者と共に生きる自己の生き方について広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。	自らの体験や悩みを踏まえて、青年期の意義と課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、豊かな自己形成に向けた学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用するとともに、課題を追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	自らの体験や悩みを踏まえて、青年期の意義と課題を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。

【「(1) ア 青年期の課題と自己形成」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の積極的な意義と青年期にある自己の生き方にかかわる課題に対する関心が高まっている。 ・青年期の意義と課題について、豊かな自己形成に向けて、自己の課題として意欲的に探究している。 ・他者と共感でき、共生を大切にしたい自己の生き方について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの体験や悩みを振り返ることを通して青年期にある自己の生き方にかかわる課題を見いだしている。 ・青年期の意義と課題について、自己の生き方にかかわる課題とつなげ、他者と共に生きる観点から多面的・多角的に考察し、豊かな自己形成に向けて探究している。 ・他者と共に生きる自己の生き方について、親子や友人、男女の関係の在り方等他者とのかかわり、社会や自然とのかかわりなど広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の意義と課題に関する諸学問の成果や統計調査資料、文学作品等の諸資料を様々なメディアを通して収集している。 ・収集した資料の中から、親子や友人、男女の関係の在り方等他者とのかかわり、社会や自然とのかかわりの観点から豊かな自己形成に向けた学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。 ・青年期の意義と課題を、自己の生き方にかかわる課題とつなげ、他者と共に生きる観点から追究し考察した過程や結果についてノートなどにまとめたり、発表や討論などを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来への夢や不安、自己の性格や適性についての悩み、愛と性にかかわる悩みなどが青年期に共通する悩みであることを理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 ・青年期の意義について、自己確立の基礎を培う時期であることを理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 ・生きる主体としての自己確立のためには、自らの人生観、世界観ないし価値観を形成することが必要であることを理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 ・自己の生き方を探求する上で、親子や友人、男女の関係の在り方等他者とのかかわり、社会や自然とのかかわりをどのように深めていけばよいかを理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。

「(1) イ 人間としての自覚」

【学習指導要領の内容】

人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などについて理解させ、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題を探究させることを通して、人間としての在り方生き方について考えを深めさせる。

【「(1) イ 人間としての自覚」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<p>人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などに対する関心を高め、それらのもつ人間の存在や価値にかかわる課題を意欲的に探究し、人間としての在り方生き方について考えようとしている。</p>	<p>人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などから人間の存在や価値にかかわる基本的な課題を見だし、それを先哲などの思想や生き方を手掛かりとして多面的・多角的に考察し探究するとともに、人間としての在り方生き方について広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。</p>	<p>人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題を探究する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用するとともに、課題を追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。</p>	<p>人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などについて、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題であることに気付き、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。</p>

【「(1) イ 人間としての自覚」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 自己の生き方にかかわる課題の解決につながるものとして、人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などに対する関心が高まっている。 人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義など人間の存在や価値にかかわる基本的な課題を、自己の生き方とのかかわりにおいてとらえ、意欲的に探究している。 先哲の思想や芸術家とその作品を手掛かりとして人間としての在り方生き方について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の生き方にかかわる課題と人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などをつなげて、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題を見いだしている。 ギリシアの思想、キリスト教、仏教、儒教などについては、「善く生きること」、「原罪と愛」、「苦と慈悲」、「望ましい人間関係」など、芸術家とその作品については、「豊かな人生」などの観点から、先哲が課題として探究したことや芸術家とその作品が問いかけているものを基に多面的・多角的に考察し、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題を探究している。 人間としての在り方生き方について、ギリシアの思想、キリスト教、仏教、儒教などの基本的な考え方を代表する先哲の思想や芸術家とその作品を手掛かりとして広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ギリシアの思想、キリスト教、仏教、儒教など基本的な考え方を代表する先哲の思想や芸術家とその作品等人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 人間の存在や価値にかかわる基本的な課題を探究する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。 人間としての在り方生き方を、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題を基に追究し考察した過程や結果についてノートなどにまとめたり、発表や討論などを行ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の生き方にかかわる課題が、多くの先哲によって探究された課題と通じていることに気づき、それが人間の存在や価値にかかわる基本的な課題であることを理解している。 善く生きるとは何かなどを探究したギリシアの思想を自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 原罪や愛などキリスト教における考え方を自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 苦や慈悲など仏教における考え方を自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 仁や礼などから人間についての見方や望ましい人間関係による社会生活の在り方など儒教における考え方を自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 人生を豊かにすることにつながる芸術家とその作品が問いかけているものを自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。

「(1) ウ 国際社会に生きる日本人としての自覚」

【学習指導要領の内容】

日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己とのかかわりにおいて理解させ、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について自覚を深めさせる。

【「(1) ウ 国際社会に生きる日本人としての自覚」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
我が国の風土や伝統、外来思想の受容に対	我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れ	我が国の風土や伝統、外来思想の受容に関す	我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れなが

<p>する関心を高め、日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について意欲的に探究し、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について考えようとしている。</p>	<p>ながら、日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について自己とのかかわりを踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について探究するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。</p>	<p>る諸資料を様々なメディアを通して収集し、日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質についての理解を深め、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について探究する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用するとともに、それについて追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。</p>	<p>ら、日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質を、生きる主体としての自己確立の課題と結び付けて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。</p>
--	---	--	---

【「(1) ウ 国際社会に生きる日本人としての自覚」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 自己とのかかわりにおいて日本人にみられるものの見方・考え方の特質を理解する観点から、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に対する関心が高まっている。 日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己とのかかわりにおいてとらえ、意欲的に探究している。 古来の日本人の考え方や代表的な日本の先哲の思想を手掛かりとして国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己とのかかわりにおいて日本人にみられるものの見方・考え方の特質につながる課題を見いだしている。 日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己形成の課題とつなげて、多面的・多角的に考察している。 国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について、古来の日本人の考え方や代表的な日本の先哲の思想を手掛かりとして探究するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> 古事記、日本書紀、万葉集などにみられる我が国の伝統や風土、及び仏教や儒教、西洋の思想や文化などの外来思想の受容に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 収集した資料の中から、日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質についての理解を深め、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について探究する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。 国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方を、日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質の観点から追究し考察した過程や結果についてノートなどにまとめたり、発表や討論などを行ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、日本人にみられる人間観、自然観、宗教観の特質を、自己とのかかわりにおいて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 古事記や日本書紀、万葉集などにみられる我が国の風土や伝統について、自己とのかかわりにおいて日本人にみられるものの見方・考え方とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 仏教や儒教、西洋の思想や文化などにみられる外来思想の受容について、自己とのかかわりにおいて日本人にみられるものの見方・考え方とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。

(2) 「(2) 現代と倫理」

【学習指導要領の内容】

現代に生きる人間の倫理的な課題について思索を深めさせ、自己の生き方の確立を促すとともに、よ

りよい国家・社会を形成し、国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。

- ア 現代の特質と倫理的課題
- イ 現代に生きる人間の倫理
- ウ 現代の諸課題と倫理

「(2) ア 現代の特質と倫理的課題」

【学習指導要領の内容】

現代の倫理的課題を大局的にとらえさせ、今日に生きる人間の課題について理解させる。

【「(2) ア 現代の特質と倫理的課題」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の特質に対する関心を高め、そこにおける倫理的課題を自己の課題とつなげて意欲的に考えようとしている。	現代にはどのような倫理的課題があるかを見だし、今日に生きる人間にとって何が重要な課題であるかについて大局的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。	現代の特質に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、現代の倫理的課題をとらえる学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用するとともに、今日に生きる人間の課題について大局的に考察した結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の特質について、倫理的視点から大局的に理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。

【「(2) ア 現代の特質と倫理的課題」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・現代の特質について人間としての在り方生き方にかかわる課題の観点から関心が高まっている。 ・現代の特質について、倫理的課題の観点から自己の課題とつなげて意欲的に考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の特質のうち、人間としての在り方生き方にかかわりの深い課題を見だししている。 ・今日に生きる人間にとって何が重要な課題であるかについて、大局的に考察している。 ・現代の倫理的課題について、自己の課題とつなげて広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の特質に関する諸資料を、倫理的課題の観点から、様々なメディアを通して収集している。 ・収集した資料の中から、今日に生きる人間の倫理的課題を大局的にとらえる学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。 ・今日に生きる人間の課題を、大局的に考察した結果についてノートなどにまとめたり、発表や討論などを行ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の特質について、倫理的視点から大局的に理解し、自己の課題とつなげて人格の形成に生かす知識として身に付けている。

「(2) イ 現代に生きる人間の倫理」

【学習指導要領の内容】

人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間とのかかわり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考えを深めさせる。

【「(2) イ 現代に生きる人間の倫理」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
----------	-------	------------	-------

現代に生きる人間が直面する諸課題に対する関心を高め、倫理的視点から意欲的に追究し、他者と共に生きる自己の生き方について考えようとしている。	現代に生きる人間が直面する諸課題について、多面的・多角的に考察し、倫理的な見方や考え方を身に付け、他者と共に生きる自己の生き方にかかわるかを広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。	現代に生きる人間が直面する諸課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集・選択・活用し、先哲などの考え方や生き方を自らの思索を深めるために活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代に生きる人間が直面する諸課題について、自己の生き方とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。
---	---	--	--

【「(2) イ 現代に生きる人間の倫理」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 現代に生きる人間が直面する諸課題に対して倫理的視点から関心が高まっている。 現代に生きる人間が直面する諸課題を倫理的な見方や考えから意欲的に追究している。 現代に生きる人間が直面する諸課題について、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として主体的に考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代に生きる人間が直面する諸課題を、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として、見いだしている。 現代に生きる人間が直面する諸課題について、倫理的な見方や考えから多面的・多角的に考察している。 他者と共に生きる自己の生き方について探究し、主体的かつ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代に生きる人間が直面する諸課題に関する諸資料を、倫理的視点から、様々なメディアを通して収集している。 収集した資料の中から、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題を探究する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。 先哲などの考え方や生き方に関する諸資料を、倫理的な見方や考え方を深めるために適切に活用している。 現代に生きる人間が直面する諸課題を、倫理的視点から追究し考察した過程や結果についてノートなどにまとめたり、発表や討論などを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「人間の尊厳と生命への畏敬」について、人間の存在や人間の力を超えたものの観点から、人間の尊厳の根拠や生命の深遠さを理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 「自然や科学技術と人間とのかかわり」について、人間がよりよく生きていくためには何が重要かという観点から、自然と人間とのかかわり、科学技術の発達の意義や問題点を理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 「民主社会における人間の在り方」について、社会と個人との関係の観点から、一人一人のものの見方や考え方、価値観を尊重し合うことの大切さを理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 「社会参加と奉仕」について、社会的存在としての人間の生き方の観点から、主体的に社会に参加することの大切さを理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 「自己実現と幸福」について、よりよく生きることや生きがいの観点から、自己のみなら

			ず社会全体の幸福の実現の大切さを理解し，人格の形成に生かす知識として身に付けている。
--	--	--	--

「(2) ウ 現代の諸課題と倫理」

【学習指導要領の内容】

生命，環境，家族・地域社会，情報社会，世界の様々な文化の理解，人類の福祉のそれぞれにおける倫理的課題を，自己の課題とつなげて追究させ，現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。

【「(2) ウ 現代の諸課題と倫理」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の倫理的諸課題に対する関心を高め，それを自己の課題とつなげて意欲的に追究し，現代に生きる人間としての在り方生き方について積極的に考えようとしている。	現代の倫理的諸課題を自己の課題とつなげて多面的・多角的に考察し，現代に生きる人間としての自己の在り方生き方について広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。	現代の倫理的諸課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し，自己の課題とつなげて追究する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用するとともに，課題を追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代に生きる人間としての在り方生き方にかかわる諸課題を自己の課題とつなげて理解し，人格の形成に生かす知識として身に付けている。

【「(2) ウ 現代の諸課題と倫理」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 現代の諸事象における倫理的諸課題のうちから選択して取り上げた課題に対する関心が高まっている。 現代の倫理的諸課題のうちから選択して取り上げた課題を自己の課題とつなげて意欲的に追究している。 現代に生きる人間としての在り方生き方について考え，倫理的諸課題に積極的に取り組んで生きようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の諸事象について，倫理的視点から課題を見いだしている。 現代の倫理的諸課題のうちから選択して取り上げた課題を，自然と人間とのかかわり，社会生活と自己とのかかわり，国際社会と自己とのかかわりの3つの視点から，自己の課題とつなげて多面的・多角的に考察している。 現代に生きる人間としての自己の在り方生き方について探究し，主体的かつ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の倫理的諸課題のうちから選択して取り上げた課題に関する資料や先哲などの考え方や生き方に関する資料を様々なメディアを通して収集している。 収集した資料の中から，現代の倫理的諸課題を自己の課題とつなげて追究する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。 課題を追究し考察した過程や結果について報告書などにまとめたり，発表や討論などを行ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生命の価値，生と死の問題，他の生命体との共存関係，地球規模での人類の責任など「生命」又は「環境」について，自然と人間とのかかわりを視点として，自己の生き方とつなげて理解し，人格の形成に生かす知識として身に付けている。 望ましい家族の在り方，新しい地域社会の在り方，情報社会の特質と人間・社会に対する影響など，「家族・地域社会」又は「情報社会」について，社会生活と自己とのかかわりを視点として，自己の生き方とつなげて理解し，人格の形成に生かす知識として身に付けている。 異なる文化の尊重，共に生きること，人類全体の福祉，国際協力・

			国際協調など、「世界の様々な文化の理解」又は「人類の福祉」について、国際社会と自己とのかかわりを視点として、自己の生き方とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。
--	--	--	---

政治・経済

1 目標

広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考えようとする。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準

政治・経済においては、学習指導要領の内容の中項目（例：「ア 民主政治の基本原則と日本国憲法」などの中項目）を内容のまとめりとして、これらごとに評価規準を作成した。

(1) 「(1) 現代の政治」

【学習指導要領の内容】

現代の日本の政治及び国際政治の動向について関心を高め、基本的人権と議会制民主主義を尊重し擁護することの意義を理解させるとともに、民主政治の本質について探究させ、政治についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。

ア 民主政治の基本原則と日本国憲法

イ 現代の国際政治

「(1) ア 民主政治の基本原則と日本国憲法」

【学習指導要領の内容】

日本国憲法の基本的性格と国会、内閣、裁判所などの政治機構を概観し、政治と法の機能、人権保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義について理解させ、民主政治の本質や現代政治の特質について探究させるとともに、政党政治や選挙などに着目して、望ましい政治の在り方及び主権者としての参政の在り方について考察させる。

【「(1) ア 民主政治の基本原則と日本国憲法」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の政治に対する関心を高め、民主政治の本質や現代政治の特質を意欲的に追究し、望ましい政治の在り方や政治参加の在り方を客観的に考えようとしている。	現代の政治から課題を見だし、民主政治の本質や現代政治の特質を多面的・多角的に考察し、望ましい民主政治の在り方や政治参加の在り方について社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断している。	現代の政治に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに、民主政治の本質や現代政治の特質、望ましい民主政治の在り方や政治参加の在り方について追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	日本国憲法の基本的性格、政治機構、政治と法の機能、人権保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義など民主政治の基本原則や、民主政治の本質と特質をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。

【「(1) ア 民主政治の基本原則と日本国憲法」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・現代日本の政治の動向に対する関心が高まっている。 ・国民主権を原理とする民主政治の本質や現代政治の様々な特質を意欲的に追究している。 ・政党政治や選挙などに着目して、望ましい政治の在り方や国民の政治参加の在り方を客観的に考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代日本の政治の動向から課題を見いだしている。 ・国民主権を原理とする民主政治の本質や現代政治の様々な特質を日本の政治制度と諸外国の政治制度を比較するなど、多面的・多角的に考察している。 ・政党政治や選挙などに着目して、望ましい政治の在り方や国民の政治参加の在り方について、価値観が多様化し利害対立が複雑化するなどの社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代日本の政治の動向に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 ・収集した資料の中から国民主権を原理とする民主政治の本質、現代政治の様々な特質、望ましい政治の在り方、国民の政治参加の在り方などについての学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 ・国民主権を原理とする民主政治の本質、現代政治の様々な特質、望ましい政治の在り方、国民の政治参加の在り方について追究し考察した過程や結果を口頭や文章などで適切に説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法は、基本的人権、国民主権及び平和主義を基本原則とし、その性格として国民国家の枠を越えた普遍性をもつことに気付く、その知識を身に付けている。 ・日本国憲法が人権規定と国会、内閣、裁判所等の政治機構についての規定で構成されているなど、日本国憲法の全体像について気付く、その知識を身に付けている。 ・政治とは社会生活の中で個人あるいは集団の考え方や利害が対立・衝突するとき、それらを調整し解決して社会の統合を図る社会的機能を意味していることを理解し、その知識を身に付けている。 ・法は国民の代表者によって構成される議会によって社会全体としての統一的な意思決定として制定されたものであることを理解し、その知識を身に付けている。 ・国家は社会の秩序維持と統合という政治的機能を果たすために法を用い、国民は社会全体の統一的な意思決定の結果としての法を遵守することが求められることを理解し、その知識を身に付けている。 ・個人の尊厳、自由、平等などの社会的価値について理解し、その知識を身に付けている。 ・基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果として確立されてきたものであり、人間が生まれながらにしてもつ権利としての基本的人権を実現することが現代の普遍的な価値となっていることを理解し、その知

		<p>識を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法の支配とは，人権保障を目指す法の下に政治権力を従属させることによって，為政者の恣意的支配を排除し，個人の尊厳と法の下での平等を求めるものであることを理解し，その知識を身に付けている。 ・人は自己の権利を主張しその保障を要求し得ると同時に，そのことから他人の権利を尊重する義務をもつことを理解し，その知識を身に付けている。 ・議会制民主主義は，理念的には権力分立制の下，国民代表制と多数決原理に基づく議会を通じて運営されていることを理解し，その知識を身に付けている。 ・議会制民主主義では，議会と国民とを結び付け，国民の多様な意見を政策決定過程に反映させることが大切であることに気付き，その知識を身に付けている。 ・民主政治は国民の自治を最大限に重視し，強制と自立のバランスをとっていこうとする政治体制であることに気付き，その知識を身に付けている。 ・現代政治における政党の役割や国民の政治参加の主要な方法である選挙制度や課題などについて理解し，その知識を身に付けている。
--	--	--

「(1) イ 現代の国際政治」

【学習指導要領の内容】

国際政治の動向，人権，国家主権，領土などに関する国際法の意義，国際連合をはじめとする国際機構の役割，我が国の防衛を含む安全保障の問題について理解させ，国際政治の特質や国際紛争の諸要因について探究させるとともに，国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について考察させる。

【「(1) イ 現代の国際政治」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の国際政治に対する関心を高め，国際政治の特質や国際紛争の	現代の国際政治から課題を見だし，国際政治の特質や国際紛争の	現代の国際政治に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し，	国際政治の動向，人権，国家主権，領土などに関する国際法の意義，国際

<p>諸要因を意欲的に追究し、国際社会における日本の役割を客観的に考えようとしている。</p>	<p>諸要因について多面的・多角的に考察し、国際社会における日本の役割について社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断している。</p>	<p>学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに、国際政治の特質や国際紛争の諸要因、国際社会における日本の役割について追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。</p>	<p>機構の役割、我が国の防衛を含む安全保障の問題、国際政治の特質や国際紛争の諸要因をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。</p>
---	---	--	--

【「(1) イ 現代の国際政治」の評価規準の具体例】

<p>関心・意欲・態度</p>	<p>思考・判断</p>	<p>資料活用の技能・表現</p>	<p>知識・理解</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・現代の国際社会における政治の動向に対して関心が高まっている。 ・国内政治とは異なる国際政治の特質や、国家間の対立や民族紛争など国際紛争の諸要因を意欲的に追究している。 ・これからの国際社会において国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割を客観的に考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の国際社会における政治の動向から課題を見いだしている。 ・すべての国家が主権を有し他国との対等な関係を前提とするなど国内政治とは異なる国際政治の特質や、国家間の対立や民族紛争など国際紛争の諸要因について多面的・多角的に考察している。 ・これからの国際社会において国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について、国際的な相互依存関係が高まるなどの社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の国際社会における政治の動向に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 ・収集した資料の中から、すべての国家が主権を有し他国との対等な関係を前提とするなど国内政治とは異なる国際政治の特質、国家間の対立や民族紛争など国際紛争の諸要因、これからの国際社会において国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割などについての学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 ・すべての国家が主権を有し他国との対等な関係を前提とするなど国内政治とは異なる国際政治の特質、国家間の対立や民族紛争など国際紛争の諸要因、これからの国際社会において国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について追究し考察した過程や結果を口頭や文章などで適切に説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・20世紀前半の二つの大戦、世紀後半の冷戦などの国際対立の経験を通じ、国際間の相互依存、紛争の平和的解決のための国際機構や国際法が発展してきたことを理解し、その知識を身に付けている。 ・冷戦後の国際社会においては、発展途上国の中に経済発展に成功し発言力が拡大した国があること、国際政治は軍事力だけを中心として展開されるのではなく、経済や社会、環境の問題など解決すべき課題が多様化していること、政治や経済、文化的関係において相互依存関係が高まっていることなどを理解し、その知識を身に付けている。 ・国際法の基本的な仕組みや、国際法については統一的な立法機関がなく強制力が十分には機能しないことを理解しているとともに、その知識を身に付けている。 ・軍縮・環境・資源の保護などに対する国際世論の高まりと国際法の発展について理解し、その知識を身に付けている。 ・国際連合で採択された世界人権宣言、国際人権規約などの意義や、国際社会における人権擁護が、自国のみならず広く世界人類の共通

		<p>の課題であることについて理解し，その知識を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国家主権に基づいて国家間の対立や領土紛争が発生したことを踏まえ，国際法による国家主権の制限の意義について理解し，その知識を身に付けている。 ・ 領土については，国民の基本的な生活圏であることを踏まえ，国民，主権と並んで近代国家の構成要素であることや領土問題の解決には，国際平和の維持と安定のために，平和的な解決に向けて広い視野に立って継続的に努力する態度が必要であることを理解し，その知識を身に付けている。 ・ 国際連合をはじめとする国際機構が，国際社会における諸問題に取り組んでいることを理解し，その知識を身に付けている。 ・ 平和と安全の確保が人類の福祉を実現する上で欠くことのできないものであることに気付くとともに，日本国憲法の平和主義の理解の上に立って，我が国の防衛について理解を深め，その知識を身に付けている。 ・ 国家は主権を有しており国家間の上に立つ権力は存在しないことについて理解し，その知識を身に付けている。 ・ 国際政治においては，すべての人の人権の尊重，法の支配，民主的な方法による対立の解決が求められており，国家間の利害調整や国際平和のために国家主権が制限される場合のあることについて理解し，その知識を身に付けている。
--	--	---

(2) 「(2) 現代の経済」

【学習指導要領の内容】

現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、日本経済の国際化をはじめとする経済生活の変化、現代経済の機能について理解させるとともに、その特質を探究させ、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。

- ア 経済社会の変容と現代経済の仕組み
- イ 国民経済と国際経済

「(2) ア 経済社会の変容と現代経済の仕組み」

【学習指導要領の内容】

資本主義経済及び社会主義経済の変容、国民経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割、資金の循環と金融機関の働きについて理解させ、現代経済の特質について探究させるとともに、経済活動の在り方と福祉の向上との関連を考察させる。

【「(2) ア 経済社会の変容と現代経済の仕組み」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の経済に対する関心を高め、現代経済の特質を意欲的に追究し、経済活動の在り方と福祉の向上との関連を客観的に考えようとしている。	現代の経済から課題を見だし、現代経済の特質を多面的・多角的に考察し、経済活動の在り方と福祉の向上との関連について社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断している。	現代の経済に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに、現代経済の特質や、経済活動の在り方と福祉の向上との関連について追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	資本主義経済及び社会主義経済の変容、国民経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みと働き、租税の意義と役割、資金の循環と金融機関の働き、現代経済の特質をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。

【「(2) ア 経済社会の変容と現代経済の仕組み」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・現代の日本経済の動向に対する関心が高まっている。 ・現代経済が混合経済で運営されていることや国民経済が一国だけで完結しえなくなったことなどの現代経済の特質を意欲的に追究している。 ・経済の発展を促進するための効率性の追求と国民福祉の向上で求められる公正さなど経済活動の在り方と福祉の向上との関連を客観的に考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の日本経済の動向から課題を見だしている。 ・現代経済が混合経済で運営されていることや国民経済が一国だけで完結しえなくなったことなどの現代経済の特質について経済体制の国際比較を行うなど多面的・多角的に考察している。 ・経済の発展を促進するための効率性の追求と国民福祉の向上で求められる公正さなど経済活動の在り方と福祉の向上との関連について日本経済の動向や経済生活の変化など社会の変化や様々な考え方を 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の日本経済の動向に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 ・収集した資料の中から、現代経済が混合経済で運営されていることや国民経済が一国だけで完結しえなくなったことなどの現代経済の特質などについての学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 ・経済の発展を促進するための効率性の追求と国民福祉の向上で求められる公正さなど経済活動の在り方と福祉の向上との関連などについての学習に役立つ情報を 	<ul style="list-style-type: none"> ・資本主義経済と社会主義経済は、生産手段が私有か公有か、資源配分が市場によって行われるか計画によって行われるかという点で区別されることを理解し、その知識を身に付けている。 ・資本主義経済では寡占化など市場の変化や政府の経済的役割が増大したこと、社会主義経済では市場経済への移行や市場メカニズムの大幅な活用により、いまや社会主義の原則通り経済を運営している例は極めて少ないことを理解し、その知識を身に付けている。

踏まえ公正に判断している。

主体的に選択して活用している。

- ・現代経済が混合経済で運営されていることや国民経済が一国だけで完結しえなくなったことなどの現代経済の特質や、経済の発展を促進するための効率性の追求と国民福祉の向上で求められる公正さなど経済活動の在り方と福祉の向上との関連について追究し考察した過程や結果を口頭や文章などで適切に説明している。

- ・家計、企業、政府が現代の経済における主要な経済主体であり、経済主体相互の関連が国民経済を構成していることを理解し、その知識を身に付けている。
- ・家計の消費と貯蓄が企業の生産や投資と密接に関連していることや、所得の変化に伴って消費の内容や水準が変化することを理解し、その知識を身に付けている。
- ・企業は土地、労働、資本といった生産要素を結合し生産活動を行うことを理解し、その知識を身に付けている。
- ・企業は生産性を高め利潤を追求するばかりでなく、雇用の促進や技術の開発を通して地域社会や経済発展に寄与するとともに、環境保全や文化の向上などにも貢献する社会的責任を負っていることを理解し、その知識を身に付けている。
- ・現代の政府は、家計や企業の経済活動にゆだねることの困難な部門を引き受けていること、資源の配分、景気変動の調整、所得や資産の分配上の不平等の是正などの役割を果たしていることを理解し、その知識を身に付けている。
- ・市場における価格の働きによって、生産が需要に適応して調整されたり、金利や賃金の変動によって資本や労働などの希少な生産要素が移動するなど、経済的資源が適切に配分されることを理解し、その知識を身に付けている。
- ・企業の巨大化により寡占化が進み、価格メカニズムが十分に働かなくなっている面があることに気付

くとともに、市場を競争的に維持しても、公共財の提供や、公害などの外部不経済の発生のように最適な資源配分を達成できない場合があることを理解し、その知識を身に付けている。

- ・ 消費者物価や卸売り物価などの概念を理解するとともに、インフレーションやデフレーションなど物価の変動が政府の経済政策などの国内的要因によって生じるばかりでなく、国際的な要因に基づく場合もあることに気付き、その知識を身に付けている。
- ・ インフレーションは国民の所得や富の格差を拡大させたり、デフレーションは景気後退や不況と結びついて国民生活に影響を与えることを理解するとともに、物価の安定は政府や中央銀行の政策の重要な目標の一つであることを理解し、その知識を身に付けている。
- ・ 経済成長と景気変動を測る指標には、国民所得、鉱工業生産、失業率、物価などの集計量があることや、それらの指標の特色を理解し、その知識を身に付けている。
- ・ 現代経済における有効需要政策の意味と役割及びその問題点について理解し、その知識を身に付けている。
- ・ 財政政策は、経済安定化、資源配分の調整、所得や資産の再配分を行って国民福祉の向上に努めていることに気付き、その知識を身に付けている。
- ・ 財政活動を行うには原資が必要であることに気付き、租税や国債な

			<p>ど財源の調達方法やそれぞれの問題点を理解し、その知識を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税制度の基本について理解し、その知識を身に付けている。 ・金融とは経済主体間の資金の融通であり、資金の需給が金融市場の金利の変化や株式及び債券市場の動向などによって調節されることを各種金融機関の役割と併せて理解し、その知識を身に付けている。 ・経済的な選択や意思決定において効率性を目指す考え方と、所得配分などの公平性や公正さを目指す考え方があることについて理解し、その知識を身に付けている。
--	--	--	--

「(2) イ 国民経済と国際経済」

【学習指導要領の内容】

貿易の意義と国際収支の現状、為替相場の仕組み、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解させ、国際経済の特質について探究させるとともに、国際経済における日本の役割について考察させる。

【「(2) イ 国民経済と国際経済」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<p>国際経済に対する関心を高め、国際経済の特質について意欲的に追究し、国際経済における日本の役割について客観的に考えようとしている。</p>	<p>国際経済から課題を見だし、国際経済の特質を多面的・多角的に考察し、国際経済における日本の役割について社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断している。</p>	<p>国際経済に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに、国際経済の特質、国際経済における日本の役割について追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。</p>	<p>貿易の意義と国際収支の現状、為替相場の仕組み、国際協調の必要性や国際経済機関の役割、国際経済の特質をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。</p>

【「(2) イ 国民経済と国際経済」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・現代の国際経済の動向に対する関心が高まっている。 ・国際的な相互依存関係の深化などの国際経済の特質を意欲的 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の国際経済の動向から課題を見だしている。 ・国際的な相互依存関係の深化などの国際経済の特質について 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の国際経済の動向に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 ・収集した資料の中から、国際的な相互依 	<ul style="list-style-type: none"> ・自国内で生産費が相対的に低い財の生産に各国が特化し、貿易を行うことで、それぞれの国に利益がもたらされるという考え方を理解

<p>に追究している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際経済の安定と成長のために果たすべき日本の役割について客観的に考えようとしている。 	<p>労働や資金の移動などから多面的・多角的に考察している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際経済の安定と成長のために果たすべき日本の役割について社会の変化や自由貿易など様々な考え方を踏まえ公正に判断している。 	<p>存関係の深化などの国際経済の特質，国際経済の安定と成長のために果たすべき日本の役割などについての学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な相互依存関係の深化などの国際経済の特質，国際経済の安定と成長のために果たすべき日本の役割について追究し考察した過程や結果を口頭や文章などで適切に説明している。 	<p>するとともに，貿易の意義と役割について気付き，その知識を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際収支統計の基本的な構成と，日本の対外経済取引の現状について理解し，その知識を身に付けている。 ・対外経済取引に伴い外貨売買の必要が生じること，外国為替市場では自国通貨と外貨に対する需給関係から為替相場が決定されていることを理解し，その知識を身に付けている。 ・経常収支や物価，金利などが為替相場に影響を与えていること，国際間の巨額の資金移動が為替相場を大きく変動させ，各国経済に深刻な影響を与えることに気付き，その知識を身に付けている。 ・為替相場安定が国際的に重要な目標になっていることを理解し，その知識を身に付けている。 ・各国経済の相互依存関係が緊密化したことに伴い，国際経済の安定と成長のために経済政策面での国際的な協調が必要になっていることに気付くとともに，世界貿易機関（WTO）や国際通貨基金（IMF）などの国際経済機関が果たしている役割や課題などについて理解し，その知識を身に付けている。 ・経済活動が地球的な規模で自由に行われるようになっている現状や，自由貿易体制を維持するために，国内市場の一層の開放や規制緩和などの政策が求められていることに気付き，その知識を身に付けている。
---	--	--	---

(3) 「(3) 現代社会の諸課題」

【学習指導要領の内容】

政治や経済に関する基本的な理解を踏まえ、現代の政治や経済の諸課題を追究する学習を行い、望ましい解決の在り方について考察させる。

- ア 現代日本の政治や経済の諸課題
- イ 国際社会の政治や経済の諸課題

「(3) ア 現代日本の政治や経済の諸課題」

【学習指導要領の内容】

大きな政府と小さな政府、少子高齢社会と社会保障、住民生活と地方自治、情報化の進展と市民生活、労使関係と労働市場、産業構造の変化と中小企業、消費者問題と消費者保護、公害防止と環境保全、農業と食料問題などについて、政治と経済とを関連させて考察させる。

【「(3) ア 現代日本の政治や経済の諸課題」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代日本の諸課題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、望ましい解決の在り方を客観的に考えようとしている。	現代日本の諸課題を多面的・多角的に考察し、望ましい解決の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	現代日本の諸課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	大きな政府と小さな政府、少子高齢社会と社会保障、住民生活と地方自治、情報化の進展と市民生活、労使関係と労働市場、産業構造の変化と中小企業、消費者問題と消費者保護、公害防止と環境保全、農業と食料問題など、現代日本の政治や経済の諸課題に関する基本的な事柄について理解し、その知識を身に付けている。

【「(3) ア 現代日本の政治や経済の諸課題」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・現代日本の諸課題から選択して取り上げた課題に対する関心が高まっている。 ・選択した課題を意欲的に追究している。 ・選択した課題について大項目(1)及び(2)の学習の成果の上に立ち、望ましい解決の在り方を客観的に考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代日本の諸課題から選択して取り上げた課題を政治や経済と関連させながら多面的・多角的に考察している。 ・選択した課題について大項目(1)及び(2)の学習の成果の上に立ち、幾つかの代表的あるいは対照的な考え方を対比させながら公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代日本の諸課題から選択して取り上げた課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 ・収集した資料の中から、課題を追究し望ましい解決の在り方を考える学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 ・課題を追究し望ましい解決の在り方を考えた過程や結果を口頭や文章などで適切に説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の国家は積極的に国民生活にかかわることが期待され、国家の機能を増大させてきたが、一方で、多くの国では財政負担が大きくなり国家の機能を減少させることを求める考え方が現れたことを理解し、その知識を身に付けている。 ・我が国が少子高齢社会を迎えて、労働力需給や経済成長など国民経済に大きな影響が出ていることや社会保障費などの財政負担も大きな問題となっていることなどを理解し、その知識を身に付けている。 ・住民生活の向上と地方自治は密接な関係があること、我が国では第

二次世界大戦以前には中央集権的な傾向が強く地方分権が十分には実現しなかったこと，日本国憲法において地方自治の規定が設けられ地方自治は大きく転換したこと，現在では地域の政治や経済の動きが住民の生活はもちろんのこと，国際的な政治や経済にも深くかかわっていることを理解し，その知識を身に付けている。

- ・現代社会は情報化が進み，情報を扱う様々な企業も起こり，リアルタイムに新鮮な情報を豊富に得ることができるなど市民生活が豊かにまた便利になっていること，しかし，一方では情報化の進展に伴う様々な新しい問題が発生しており，知的所有権の保護や情報モラルの確立が必要であることについて理解し，その知識を身に付けている。
- ・我が国の労働組合は企業別組合が最も重要な単位であることや，団体交渉や労使協議制の役割，また我が国の労働市場では賃金の変動によって労働力の需給や移動が調整されにくかったこと，少子高齢化や産業構造の高度化などにより労働市場が変化してきたことなどを理解し，その知識を身に付けている。
- ・経済のソフト化・サービス化が進み，産業構造がより高度化する中で，中小企業は新たな事業を展開するなど経済的に大きな役割を果たしていること，しかし，一方で産業分野によっては，中小企業と大企業との間には是正すべき様々な格差が存在していることなどを理解し，その知識を身に付けている。
- ・消費者の権利を守るた

			<p>の制度が整備されてきてはいるものの、情報化の進展などによって新しいタイプのトラブルも数多く発生している現状や、取引における契約の意味などを理解し、その知識を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民の公害防止や環境保全についての意識の高まり、国や地方公共団体さらには企業などの積極的な取組などによって、公害防止や環境保全に一定の成果は上がっているものの、現在も化学物質による汚染や人体への影響が懸念されている状況を理解し、その知識を身に付けている。 ・我が国は他の先進国と比べて食料自給率が極めて低いことが特色であるとともに、農業の体質強化が課題とされていることなどを理解し、その知識を身に付けている。
--	--	--	--

「(3) イ 国際社会の政治や経済の諸課題」

【学習指導要領の内容】

地球環境問題、核兵器と軍縮、国際経済格差の是正と国際協力、経済摩擦と外交、人種・民族問題、国際社会における日本の立場と役割などについて、政治と経済とを関連させて考察させる。

【「(3) イ 国際社会の政治や経済の諸課題」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
国際社会の諸課題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、望ましい解決の在り方を客観的に考えようとしている。	国際社会の諸課題を多面的・多角的に考察し、望ましい解決の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	国際社会の諸課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに、望ましい解決の在り方を追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	地球環境問題、核兵器と軍縮、国際経済格差の是正と国際協力、経済摩擦と外交、人種・民族問題、国際社会における日本の立場と役割など、国際社会の政治や経済の諸課題に関する基本的な事柄について理解し、その知識を身に付けている。

【「(3) イ 国際社会の政治や経済の諸課題」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
・現代における国際社会の諸課題から選択して取り上げた課題に対する関心が高ま	・現代における国際社会の諸課題から選択して取り上げた課題を政治や経済と関連	・現代における国際社会の諸課題から選択して取り上げた課題に関する諸資料を様	・地球環境問題が具体的には、地球温暖化など様々な問題として現れていることに気付き、

- っている。
- ・ 選択した課題を意欲的に追究している。
 - ・ 選択した課題について大項目(1)及び(2)の学習の成果の上に立って、望ましい解決の在り方を客観的に考えようとしている。

させながら多面的・多角的に考察している。

- ・ 選択した課題について大項目(1)及び(2)の学習の成果の上に立ち、幾つかの代表的あるいは対照的な考え方を対比させながら公正に判断している。

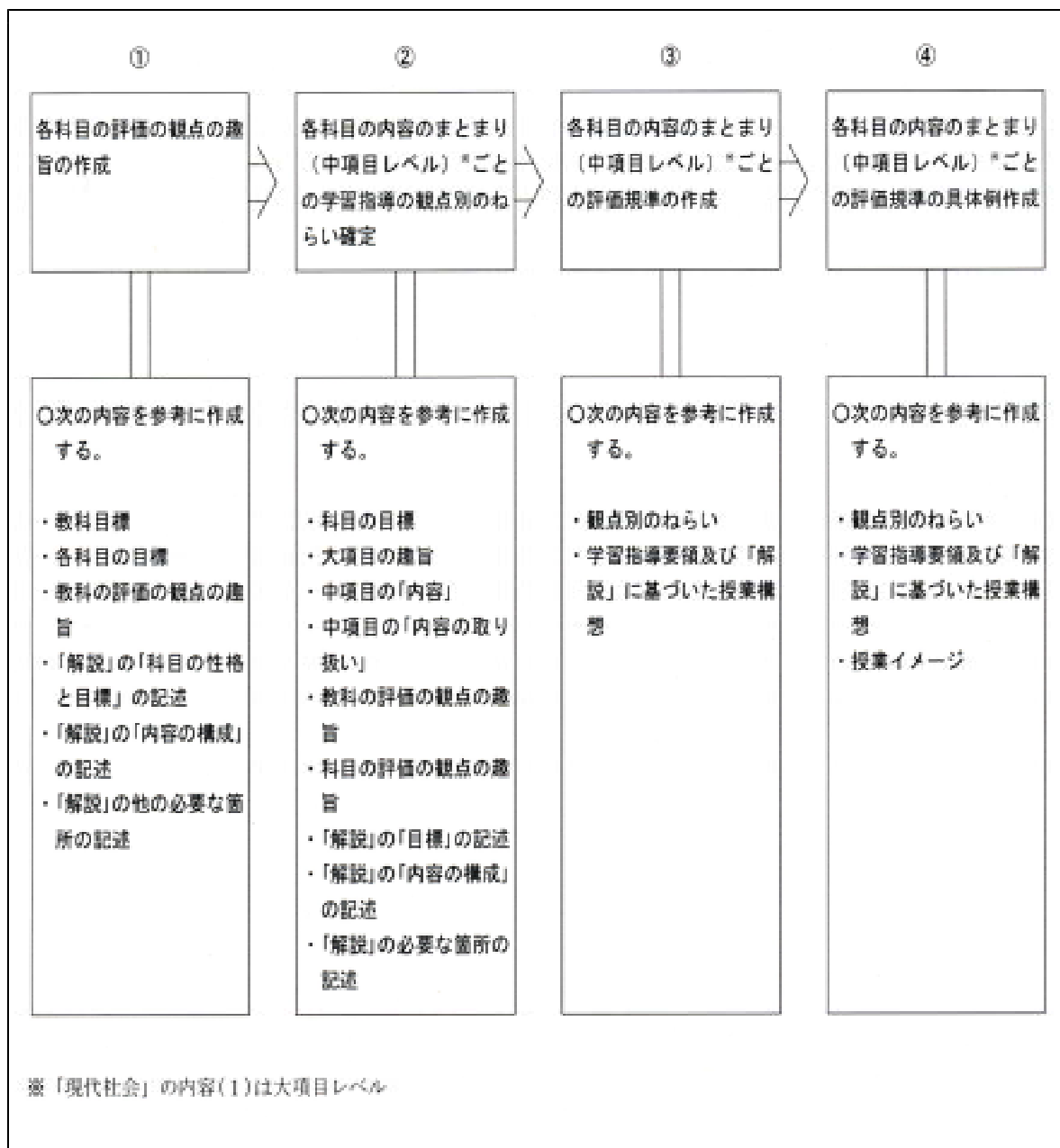
- 々なメディアを通して収集している。
- ・ 収集した資料の中から、課題を追究し望ましい解決の在り方を考える学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。
 - ・ 課題を追究し望ましい解決の在り方を考えた過程や結果を口頭や文章などで適切に説明している。

- これらの問題が、工業化、資源・エネルギーの大量消費、人口増加、農業活動の拡大など人間の諸活動の増大によって引き起こされ、さらに個々の問題が相互に複雑に絡み合って問題群を形成し、その被害や影響が一国内に留まらず、国境を越え地球規模にまで広がっていること、エネルギー分野での技術の開発などの国際的な取組が必要となっていることを認識し、その知識を身に付けている。
- ・ 核兵器や生物・化学兵器などの開発、使用及び広範な配備が国際社会に大きな影響を与えてきたこと、戦争を回避し国際平和を実現するために軍縮が進められており、国家間の相互理解を促進し、国際協調の精神を深めつつ、軍縮に向けて不断に努力することが国際平和の実現につながることを理解し、その知識を身に付けている。
 - ・ 今日多くの発展途上国が工業化を進めているが、その一方で先進国との経済格差が拡大するとともに発展途上国間においても経済的格差があることについて理解し、その知識を身に付けている。
 - ・ 飢餓や貧困に苦しむ国々は政治的に不安定になりやすく、国民の基本的な人権の保障及び実現確保が困難となり、国際社会の不安定要因となりやすいことなどを理解し、その知識を身に付けている。
 - ・ 国際社会における相互依存関係が緊密化し、世界貿易が拡大している一方、日米をはじめ先進国間の貿易不均衡などが政治問題化し、種々の経済摩擦が発生していること、今後と

		<p>も様々な通商上の問題が発生する可能性があることなどを理解し、その知識を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none">・一つの国家が多くの人種・民族によって構成されていることが珍しいこと、それぞれの人種・民族は独自の言語、文化、宗教などをもっており、その差異や経済格差が、時として相互の反感や差別と結び付き人種・民族問題を発生させていることなどを理解し、その知識を身に付けている。・近年国際社会における日本の経済的比重の高まりとともに、日本の果たすべき政治的、経済的立場と役割は重くなり、海外からの期待も大きくなっていることを理解し、その知識を身に付けている。
--	--	---

評価規準及びその具体例の作成手順

前記の評価規準及びその具体例の作成は、次の図中の ① から ④ の順に作業を行った。その際図中の「次の内容を参考に作成する」と示された内容を基に作成した。



なお、図中の「解説」とは「高等学校学習指導要領解説公民編」のことである。図中に示す内容から分かるように、各科目の観点の趣旨、内容のまとめりごとの学習指導のねらい、内容のまとめりごとの評価規準、内容のまとめりごとの評価規準の具体例は、学習指導要領、「解説」及びそれらに基づきながら展開される実際の授業イメージを基に作成されている。

例えば、①の各科目の評価規準を作成した後、②の各中項目のねらいと③の評価規準の作成を中心に具体的な作成について「政治・経済」の大項目(1)の中項目アの場合について例示しておく。

この中項目アについて、「学習指導要領」及び「学習指導要領解説公民編」（以下「解説」とする。）では、次のように示されている。まず中項目アの学習指導のねらいを設定するために、大項目(1)の趣旨、中項目アの「内容」、「内容の取扱い」及び「解説」の内容から4観点に即して学習指導のねらいを抽出した（下線部が該当する）。

<大項目「(1) 現代の政治」の趣旨>

現代の日本の政治及び国際政治の動向について関心を高め、基本的人権と議会制民主主義を尊重し擁護することの意義を理解させるとともに、民主政治の本質について探究させ、政治についての見方や考え方を身に付けさせる。

< 中項目「ア 民主政治の基本原則と日本国憲法」の「内容」と「内容の取扱い」 >

ア 民主政治の基本原則と日本国憲法

日本国憲法の基本的性格と国会，内閣，裁判所などの政治機構を概観し，政治と法の機能，人権保障と法の支配，権利と義務の関係，議会制民主主義について理解させ，民主政治の本質や現代政治の特質について探究させるとともに，政党政治や選挙などに着目して，望ましい政治の在り方及び主権者としての参政の在り方について考察させる。

< 「内容の取扱い」 >

ア 内容の(1)のアの民主政治の本質については，世界の主な政治体制と関連させて扱うこと。また，現代政治の特質については，世論形成などについて具体的事例を取り上げて扱い，主権者としての政治に対する関心を高めることに留意すること。

< 「解説」の中項目アに関する内容 >

ここでは，日本国憲法の基本的性格や政治機構を取り上げながら民主政治の基本原則について理解させるとともに，民主政治の本質や現代政治の特質について探究させ，望ましい政治の在り方と国民参政の意義について広い視野から考察させることを主なねらいとしている。

以上の内容（下線部を中心）を基に具体的な学習指導のねらいを整理した。そして，学習指導のねらいを4観点ごとに分類して示すと次のようになる。

< 関心・意欲・態度 >

現代の政治に対する関心を高め，民主政治の本質や現代政治の特質を意欲的に追究するとともに，望ましい政治の在り方や政治参加の在り方を客観的に考えようとする態度を養う。

< 思考・判断 >

現代の政治から課題を見だし，民主政治の本質や現代政治の特質を多面的・多角的に考察させ，望ましい民主政治の在り方や政治参加の在り方について，社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断させる。

< 資料活用の技能・表現 >

現代の政治に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し，学習に役立つ情報を主体的に選択して活用させるとともに，民主政治の本質や現代政治の特質，望ましい民主政治の在り方や政治参加の在り方について追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現させる。

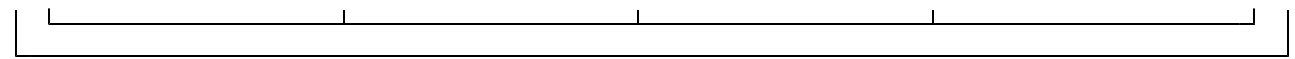
< 知識・理解 >

日本国憲法の基本的性格，政治機構，政治と法の機能，人権保障と法の支配，権利と義務の関係，議会制民主主義など民主政治の基本原則や，民主政治の本質と特質をとらえる基本的な概念や理論を理解させ，その知識を身に付けさせる。

以上の手順により学習指導のねらいを抽出した。学習指導のねらいを明確にした後に，そのねらいを踏まえておおむね満足できると判断される状況を学習内容を即しながら想定し，評価規準として作成した。先の図中の評価規準（ここでは中項目ア）は次のように示されることになる。

【「(1) ア 民主政治の基本原則と日本国憲法」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の政治に対する関心を高め，民主政治の本質や現代政治の特質を意欲的に追究し，望ましい政治の在り方や政治参加の在り方を客観的に考えようとしている。	現代の政治から課題を見だし，民主政治の本質や現代政治の特質を多面的・多角的に考察し，望ましい民主政治の在り方や政治参加の在り方について社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断している。	現代の政治に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し，学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに，民主政治の本質や現代政治の特質，望ましい民主政治の在り方や政治参加の在り方について追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	日本国憲法の基本的性格，政治機構，政治と法の機能，人権保障と法の支配，権利と義務の関係，議会制民主主義など民主政治の基本原則や，民主政治の本質と特質をとらえる基本的な概念や理論を理解し，その知識を身に付けている。



先の図中の評価規準を作成した後、実際の授業イメージを加えて具体化させ、図中の「評価規準の具体例」を作成した。

第4 単元の評価に関する事例

ここでは、指導と評価の工夫を行った事例として現代社会、倫理、政治・経済の3科目について、各1事例を紹介する。

現代社会

ここでは、学習指導要領に例示されている五つの「現代社会の諸問題」のうち、「 - 科学技術の発達と生命の問題 - 」（内容のまとまりに当たる）を選択して取り上げて授業を行った事例として紹介する。

単元名 「現代に生きる私たちの課題 - 科学技術の発達と生命の問題 - 」（8時間）（第1学年4月）

1 単元の目標

- (1) 科学技術の発達と生命の問題に対する関心を高め、自己とのかかわりに着目して設定した課題を意欲的に追究させ、自己の在り方生き方と関連させながら考えようとする態度を養う。
- (2) 科学技術の発達と生命の問題について自己とのかかわりに着目して課題を見だし、科学技術の発達に伴う生命の考え方の変化について多面的・多角的に考察させるとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断させる。
- (3) 科学技術の発達と生命の問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、収集した資料の中から科学技術の発達と生命の問題について設定した課題を追究する学習に役立つ情報を主体的に選択して活用させるとともに、課題の設定の仕方、統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法を身に付けさせる。また、課題を追究し考察した過程や結果を、レポートや報告書にまとめたり、発表などを行ったりして表現させる。
- (4) 科学技術の成果が社会生活のすみずみまで浸透し、生命の在り方にまで影響が及んできたことについて理解させるとともに、科学技術の発達と生命の問題が生じる背景や問題点を追究する観点として、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点があることを理解させる。

2 単元の評価規準

	内容のまとまりごとの評価規準	単元の評価規準	学習活動における具体的評価規準
ア	現代社会の諸問題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、いかに生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚している。	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の発達と生命の問題に対する関心が高まっている。 ・科学技術の発達と生命の問題について自己とのかかわりに着目して設定した課題を意欲的に追究している。 ・科学技術の発達と生命の問題について自己の在り方生き方と関連させながら考えようとしている。 	<p>この単元の学習の最後に、更に調べてみたいと思う関心のある課題とその理由をワークシートに記入している。</p> <p>調査や作業活動を通して、課題を意欲的に追究していると観察から見とれる。</p> <p>課題を追究する学習計画を立て、それをワークシートに記入している。</p> <p>科学技術の発達に伴って生じる生命の問題について考えることの意味について自分の思いをノートに記入している。</p>
イ	現代社会の諸問題について自己とのかかわりに着目して課題を見だし、多面的・多角的に考察し、いかに生きるかについて社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の発達と生命の問題について自己とのかかわりに着目して課題を見だしている。 ・科学技術の発達に伴う生命の考え方の変化について多面的・多角的に考察している。 ・科学技術と生命の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。 	<p>科学技術の発達と生命の問題について自己とのかかわりに着目して具体的な課題を見出すとともに、課題を追究したい理由をワークシートに記入している。</p> <p>科学技術の発達に伴って、生命についての考え方やとらえ方がどのように変化し、どのような生命の在り方にかかわる課題に直面しているか、様々な観点から多面的・多角的に考察し、その内容をノートに記入している。</p> <p>科学技術の発達と生命の問題について倫理的、社会的、文化的、政治的、経済的観点から追究し、様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その内容を報告書に記入している。</p>
ウ	現代社会の諸問題に関	・科学技術の発達と生命の問題	科学技術の発達と社会への影響に関する緒

資料活用 の技能・表現	<p>する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択して活用し、学び方の技能を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。</p>	<p>に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した資料の中から科学技術の発達と生命の問題について設定した課題を追究する学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 ・課題の設定の仕方、統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法を身に付けている。 ・科学技術の発達と生命の問題について設定した課題を追究し考察した過程や結果を、レポートや報告書にまとめたり、発表などを行ったりして表現している。 	<p>資料を様々なメディアを通して収集し、その収集方法と入手先についての一覧表を作っている。</p> <p>科学技術の発達と生命の問題について設定した課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、その内容を調査カードに記入している。</p> <p>課題を適切に設定し、課題追究で用いる資料を適切に選択して分析し、それを基に課題を追究し考察した過程や結果を報告書にまとめている。</p> <p>統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査などの成果を生かして、調べた内容を適切に説明している。</p> <p>発表について自己評価カードの「発表のときにどのような工夫を行ったか」という評価項目に対し、工夫した内容を記入している。さらに、他の生徒から発表について分かりやすく説明しているという評価を評価カードに記入してもらっている。</p>
工 知 識 ・ 理 解	<p>現代社会の諸問題の現状や問題点、本質及び学び方について理解し、その知識を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の成果が社会生活のすみずみまで浸透するとともに、生命の在り方にまで影響が及んできたことについて理解し、その知識を身に付けている。 ・科学技術の発達と生命の問題が生じる背景や問題点を追究する観点として、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点があることを理解し、その知識を身に付けている。 	<p>学習の結果理解した内容としてノートに次のことを記入している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の成果が社会生活のすみずみにまで浸透するとともに生命の在り方にまで影響が及んできたこと。 ・人類の長い歴史を通じて培われてきた生命についての考え方が科学技術の発達によって変化し、生命の在り方にかかわる様々な課題に直面していること。 <p>科学技術の発達と生命の問題を追究する観点として、倫理、社会、文化、政治、経済などの観点があることをワークシートに記入している。</p>

3 指導と評価の計画

(1) 授業の流れ

- 第一次「科学技術の発達と生命の問題把握」・・・・・・・・・・(2 時間)
- 第二次「課題追究学習のガイダンスと課題設定・追究計画の作成」・・・・・・・・(1 時間)
- 第三次「課題追究と報告書作成」・・・・・・・・・・(3 時間)
- 第四次「発表」・・・・・・・・・・(2 時間)

(2) 指導と評価の展開例

次 程	ね ら い ・ 学 習 活 動	単元の評価規準との関連	評 価 方 法 等
一次 (2時間 扱い)	<p>ねらい 現代社会の諸問題として例示されている五つの問題のうち、二つを選択して取り上げる。そのうちの一つを「科学技術の発達と生命の問題」とし、科学技術の発達が我々の生活を豊かにしたことを理解させるとともに、一方で生命の在り方にまで影響が及んできたことに気付かせる。</p>		

	<p>・様々なメディアを通して資料を収集し、科学技術が発達したことにより我々の生活が豊かなものになった一方で、生命の在り方にまで影響を与えることになったかを考察し、ノートにまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><メディア例> 新聞 テレビ インターネット 等</p> <p><内容例> 情報通信手段の発達 交通手段の発達 医療機器の発達 遺伝子操作の問題 臓器移植の問題 クローン 尊厳死の問題</p> </div>	ウの イの	<p>科学技術の発達と社会への影響について収集した資料名と収集した手段、目的、入手先の一覧表を作成させ、事後に分析する(技能)。</p> <p>科学技術が発達したことにより我々の生活が豊かなものになった一方で、生命の在り方にまで影響を与えることになったことについて様々な観点から考察しノートにまとめた内容を事後に分析する。(思考)</p>
二次 (1時間 扱い)	<p>ねらい 科学技術の発達が生命の在り方に影響を与えた問題(例えば、遺伝子操作の問題、臓器移植の問題、クローン、尊厳死の問題など)のうち、特に調べたいことを具体的な追究テーマとして設定し、倫理、社会、文化、政治、経済の観点から追究するための学習計画を立てさせる。その際、課題追究の方法についてのガイダンスを行う。</p> <p>・テーマ設定の方法、資料の収集と活用 の方法、課題追究の方法、課題追究の まとめ方について学ぶ。</p> <p>・自己とのかかわりにおいて主体的に追 究できる課題を見いだすとともに、そ の課題を追究したい理由をワークシ ートに記入する。</p> <p>・課題追究のための学習計画を立て、ワ ークシートに記入する。</p> <p>・同じテーマの者でグループをつくり、 学習計画について次のことを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><テーマの吟味・検討> 追究可能で、意義あるテーマである か</p> <p><調査方法> 倫理、社会、文化、政治、経済の観 点から追究するためには具体的に何 を調査すればよいか(調査項目) どのような手段で調査すればよいか</p> </div>	エの イの アの	<p>調査の観点として学習したことをワークシートに記入させ事後に分析する(知識・理解)。</p> <p>追究したい課題を見だし、その課題を追究したい理由をワークシートに記入させ事後に分析する(思考)。</p> <p>学習計画をワークシートに記入させ事後に分析する(態度)。</p>
三次 (3時間 扱い)	<p>ねらい 科学技術の発達と生命の問題にかかわる課題(例えば、遺伝子操作の問題、臓器移植の問題、クローン、尊厳死の問題など)を追究させるとともに、課題追究の過程で調べ方の技能を身に付けさせる。</p> <p>・次のような情報源と方法で調査活動を行う。</p>	アの	<p>課題追究の様子を観察する(意欲)。</p>

< 情報源 >
 書籍
 官公庁発行の白書
 新聞
 < 調査方法 >
 アンケート
 聞き取り調査
 インターネット検索
 調査方法が調査目的に合致しているか、資料は公正なものか等検討する。

・調べた内容を調査カードに記録し整理して、その中から課題追究に役立つ内容を選択して取り出しまとめる。

< 調査事例 >
 脳死にかかわる各国の状況
 脳死に対する考え方の変化
 人間の有り様としての生老病死の意味（倫理）
 死の定義は可能か？（社会）
 生死観の問題を考える（文化）
 オランダの安楽死法案等の法規程や日本の臓器移植法案の成立過程（政治）
 医療資源の配分，生命の南北問題，生命の問題にかかわる産業と私企業の利潤追求，医療と市場原理等（経済）
 < 指導上の配慮事項例 >
 資料の集め方（必要とする情報とその目的に応じた情報の探し方）
 インターネットによる検索の注意事項
 聞き取り調査等の場合のマナー
 統計・資料の読み取り方
 資料整理の仕方 等

科学技術の発達と生命の問題にかかわる課題を追究した結果を報告書にまとめさせ、まとめ方の技能を身に付けさせる。
 ・次のことを報告書に記述する。

課題追究テーマとテーマ設定の理由
 調査項目と調査方法
 考察過程
 結論
 参考文献・資料名

・次の作業を行う。

< 作業事例 >
 ・主題を確認する。
 ・カード等を使って整理した資料をまとめ、著作権と引用についての配慮，活用する図版やグラフ等の選択と配置にも注意しながら，本文の全体構成を考える。

ウの

設定した課題にかかわって収集した資料名と収集した手段，目的，入手先の調査カードを作成させ，事後に分析する（技能）。

イの

ウの

考察した内容を報告書にまとめさせどのような考察を行ったかを事後に分析する（思考・判断）
 報告書の内容を情報活用や表現という観点から事後に分析する（技能・表現）。

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの意見をまとめる。 例えば、「生命の尊厳」の視点から脳死問題について、生物学、医学上、法律の側面、宗教や文化による考え方の違い、政治、経済的問題、倫理的問題などを考慮しながら、自分、家族、友人、見知らぬ他人等の場合について、それぞれの立場で考えたことをグループで意見を出し合いまとめる。 ・報告書の題名と副題を決定し、以下のような構成で各項目を書き上げる。 <ol style="list-style-type: none"> 1 表紙 2 序文 3 本文（序論，本論，結論 等） 4 あとがき 5 参考文献等 		
<p>四次 (2時間 扱い)</p>	<p>ねらい 同じテーマ（例えば、臓器移植の問題など）で一つのグループをつくり、その中で各自が作成した報告書を基に科学技術の発達と生命の問題について考察したことを発表させるとともに、発表内容を基に話し合わせ、現代社会においていかに生きるかについて考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で発表資料を用意して各自発表する ・他の生徒の発表内容を参考にしながら、科学技術の発達と生命の問題について理解した内容をノートにまとめる。 ・自分の発表についての自己評価、他の生徒の発表について評価を行う。 ・様々な人の意見を聞きながら、科学技術の発達に伴って生じる生命の問題について考えることの意味について自分の思いをノートに記入する。 ・学習の成果をもとに、更に調べてみたい科学技術の発達と生命の問題にかかわる課題とその理由をワークシートに記入する。 	<p>ウの</p> <p>エの</p> <p>ウの</p> <p>アの</p> <p>アの</p>	<p>発表の仕方と発表内容を分析する（技能・表現）。</p> <p>ノートに記入した内容を事後に分析する（理解）。</p> <p>自己評価表，他者評価表を事後に分析する（表現）。</p> <p>生徒の思いを記入したノートを事後に分析する(態度)。</p> <p>今後調べてみたい課題とその理由をワークシートに記入させ事後に分析する(関心)。</p>

(注)「指導と評価の展開例」中の 印の番号は、「2 単元の評価規準」の「学習活動における具体的評価規準」の番号と一致している。

参考資料

< 単元「現代に生きる私たちの課題 - 科学技術の発達と生命の問題 - 」で使用するワークシートの工夫例 >

<p>科学技術の発達と生命の問題</p> <p style="text-align: right;">年 組 番 名 前 _____</p> <p>科学技術の発達が生命の在り方に影響を与えた問題を調査する観点とその内容を書きなさい。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">観 点</th> <th style="width: 85%;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td style="height: 20px;"> </td><td> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td><td> </td></tr> <tr><td style="height: 20px;"> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> <p>課題として見いだした内容を書きなさい。また、なぜその課題を追究したいのか理由を書きなさい。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;"> 課題として見いだした内容 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 5px;"> </div> </td> <td style="padding: 5px;"> なぜ課題を追究したいのか <div style="border: 1px solid black; height: 80px; margin-top: 5px;"> </div> </td> </tr> </table> <p>学習計画を立ててみよう</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">時</th> <th style="width: 15%;">月日(曜)</th> <th style="width: 20%;">調査のねらい</th> <th style="width: 30%;">調査・研究内容</th> <th style="width: 30%;">調 査 方 法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> <p>これまで学習したことを基に、今後さらに調べてみたいと思う生命の問題にかかわる関心ある課題を書きなさい。また、なぜその課題を追究したいのか理由を書きなさい。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;"> 今後追究したい課題 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 5px;"> </div> </td> <td style="padding: 5px;"> 課題を追究したい理由 <div style="border: 1px solid black; height: 80px; margin-top: 5px;"> </div> </td> </tr> </table>	観 点	内 容							課題として見いだした内容 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 5px;"> </div>	なぜ課題を追究したいのか <div style="border: 1px solid black; height: 80px; margin-top: 5px;"> </div>	時	月日(曜)	調査のねらい	調査・研究内容	調 査 方 法																今後追究したい課題 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 5px;"> </div>	課題を追究したい理由 <div style="border: 1px solid black; height: 80px; margin-top: 5px;"> </div>	連 関 工 の 第 二 次 ----- イ の ----- ア の ----- ア の 第 四 次
観 点	内 容																																
課題として見いだした内容 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 5px;"> </div>	なぜ課題を追究したいのか <div style="border: 1px solid black; height: 80px; margin-top: 5px;"> </div>																																
時	月日(曜)	調査のねらい	調査・研究内容	調 査 方 法																													
今後追究したい課題 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 5px;"> </div>	課題を追究したい理由 <div style="border: 1px solid black; height: 80px; margin-top: 5px;"> </div>																																

< 調査カードの工夫例 >

<p>< 小カード > (小カード 1 枚につき 1 項目の調査内容を記入する)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> テーマ (作成日) <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 調べた内容 (参考資料) </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> テーマ (作成日) <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 調べた内容 (参考資料) </td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>< 大カード > 小カードに記入した内容を大カードにまとめる</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> テーマ <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> </td> </tr> </table>	テーマ (作成日) <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 調べた内容 (参考資料)	テーマ (作成日) <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 調べた内容 (参考資料)	テーマ <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>		連 関 ウ の	次 程 第 三 次
テーマ (作成日) <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 調べた内容 (参考資料)	テーマ (作成日) <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 調べた内容 (参考資料)					
テーマ <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>						

< 他者評価カードの工夫例 >

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 5px;">他者評価カード</td> <td style="padding: 5px;">(さんの発表について)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; padding: 5px;"> _____ 年 組 番 名 前 _____ </td> </tr> </table> <table style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td style="text-align: center;"> と 同 様 ともよい 普通 努力が必要 A B C </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">資料を分析した内容を分かりやすく説明していましたか。</td> <td style="text-align: center;">A B C</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">調べた内容を分かりやすく説明していました。</td> <td style="text-align: center;">A B C</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">課題追究した結論を分かりやすく説明していましたか。</td> <td style="text-align: center;">A B C</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">発表時に分かりやすい工夫を行っていたことで、特に気付いた点はどのような ことがありましたか。</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> 総合評価 <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div> </td> </tr> </table>	他者評価カード	(さんの発表について)	_____ 年 組 番 名 前 _____			と 同 様 ともよい 普通 努力が必要 A B C	資料を分析した内容を分かりやすく説明していましたか。	A B C	調べた内容を分かりやすく説明していました。	A B C	課題追究した結論を分かりやすく説明していましたか。	A B C	発表時に分かりやすい工夫を行っていたことで、特に気付いた点はどのような ことがありましたか。		<div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	総合評価 <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div>	連 関 ウ の	次 程 第 四 次
他者評価カード	(さんの発表について)																	
_____ 年 組 番 名 前 _____																		
	と 同 様 ともよい 普通 努力が必要 A B C																	
資料を分析した内容を分かりやすく説明していましたか。	A B C																	
調べた内容を分かりやすく説明していました。	A B C																	
課題追究した結論を分かりやすく説明していましたか。	A B C																	
発表時に分かりやすい工夫を行っていたことで、特に気付いた点はどのような ことがありましたか。																		
<div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	総合評価 <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin: 0 auto;"></div>																	

4 観点別評価の進め方

「おおむね満足できると判断される」状況（B）について設定した「学習活動における具体的評価規準」に照らして、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される具体例及び「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手だての例を以下にまとめた。

	学習活動における具体的評価規準	「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される具体例(下線部が判断の要点)	「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手だて
ア 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	この単元の学習の最後に、更に調べてみたいと思う関心のある課題とその理由をワークシートに記入している。	ワークシートに、 <u>自分とかかわりがあるもの</u> で関心のあることを課題としてあげ、調べてみたい理由として、 <u>この単元の学習の成果をさらに発展させた内容</u> を記入している。	この単元全体の学習の要点を整理させるとともに、生徒とのかかわりのある事柄と関連させて関心を焦点化させる。
	調査や作業活動を通して、課題を意欲的に追究していると観察から見とれる。	学習計画に従って、調査や作業活動を行う中で <u>新たな課題</u> を見だし、さらに調査や作業の <u>範囲を広げながら追究</u> している。	机間指導で生徒への助言や励ましを行う。
	課題を追究する学習計画を立て、それをワークシートに記入している。	ワークシートに、倫理、社会、文化、政治、経済の観点を含め <u>様々な追究方法を取り入れて学習計画</u> を記入している。	追究方法について再度説明し、課題追究の過程をイメージできるように助言し、 <u>追究意欲を育てる</u> 。
	科学技術の発達に伴って生じる生命の問題について考えることの意味について自分の思いをノートに記入している。	ノートに、 <u>自己とのかかわりや生き方とかかわらせながら、科学技術の発達に伴って生じる生命の問題について考えること</u> の大切さを記入している。	この単元全体の学習内容である科学技術の発達と生命の問題が自分とどのようにかかわっているかを再度整理させる。
イ 思 考 ・ 判 断	科学技術の発達と生命の問題について自己とのかかわりに着目して具体的な課題を見いだすとともに、課題を追究したい理由をワークシートに記入している。	ワークシートに、自己とのかかわりに着目して具体的な課題を見だし、 <u>その課題を追究したい理由と自分の生き方との関連</u> を記入している。	科学技術の発達と生命の問題とが自分とどのようにかかわるか整理させ、何を課題として設定できるかを考察させる。
	科学技術の発達に伴って、生命についての考え方やとらえ方がどのように変化し、どのような生命の在り方にかかわる課題に直面しているか、様々な観点から多面的・多角的に考察し、その内容をノートに記入している。	ノートに、 <u>科学技術の発達が原因となって生命についての考え方が変化したことを明確にする</u> とともに、倫理、社会、文化、政治、経済の観点を含め、 <u>様々な観点から生命の問題が現代社会の課題となっていること</u> を考察して、その内容を記入している。	収集した資料を再度吟味させるとともに、これまでの生命についての考え方を整理し、生命の在り方にかかわる課題がどのようにして生じてきたかを考察させる。
	科学技術の発達と生命の問題について倫理的、社会的、文化的、政治的、経済的観点から追究し、様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その内容を報告書に記入している。	報告書に、科学技術の発達と生命の問題について倫理的、社会的、文化的、政治的、経済的観点を踏まえるとともに、学習した様々な考え方や <u>他の生徒の意見を吟味しながら、生命の在り方について公正に判断して</u> 、その内容を記入している。	科学技術の発達と生命の問題について倫理的、社会的、文化的、政治的、経済的観点からどのようなことが考えられるか具体的な助言を行い考察させる。
ウ 資 料	科学技術の発達と社会への影響に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、その収集方法と入手先	作成した一覧表に、科学技術の発達と社会への影響に関する諸資料を新聞記事やインターネット、インタビュー、電話、FAX等様々な手段を活用して収集し、 <u>学習に役立つ資料</u>	資料収集の方法や情報源について再度説明し、科学技術の発達と社会への影響に関する諸資料とし

活用の技能・表現	<p>についての一覧表を作っている。</p> <p>科学技術の発達と生命の問題について設定した課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、その内容を調査カードに記入している。</p>	<p>として活用できるように適切に分類・整理するとともに、収集方法と情報源についてまとめている。</p> <p>調査カードに、科学技術の発達と生命の問題について設定した課題に関する諸資料を新聞記事やインターネット、インタビュー、電話、FAXなど様々な手段を活用して収集し、学習に役立つ資料として活用できるように適切に分類・整理するとともに、収集方法と情報源について記入している。</p>	<p>て何があればよいか具体的に想定させる。</p> <p>資料収集の方法や情報源について再度説明し、課題追究に役立つ諸資料として何があればよいか具体的に想定させる。</p>
	<p>課題を適切に設定し、課題追究で用いる資料を適切に選択して分析し、それをもとに課題を追究し考察した過程や結果を報告書にまとめている。</p>	<p>報告書に、次のような内容の項目を含め、様々な項目立てをして報告書の内容を構成し、かつ、<u>図表などを効果的に活用して、分かりやすく自分なりの工夫を行いながらまとめている。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような課題意識をもって課題を設定したか ・課題追究の計画 ・どのような資料を分析し学習に役立つ情報を得たか ・追究して得た結論は何か ・どのような根拠で結論を得たか 	<p>どのような関心から追究すべき課題を設け、どのような資料を用いどのような方法で追究し、何を考え自分はどのような結論を出したのか再度整理させ、短い文章でまとめさせる。</p>
	<p>統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査などの成果を生かして、調べた内容を適切に説明している。</p>	<p>発表内容に、次のような項目が含まれ、<u>分かりやすく自分なりの発表の工夫を行っている。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題追究の計画 ・資料をどのように分析し、課題追究に役立つ情報を得たか ・調査の方法 ・追究して得た結論は何か ・どのような根拠で結論を得たか 	<p>資料の見方や分析するための情報処理の項目や説明の要点を整理させるとともに、説明の仕方を助言する。</p>
	<p>発表について自己評価カードの「発表のときにどのような工夫を行ったか」という評価項目に対し、工夫した内容を記入している。さらに、他の生徒から発表について分かりやすく説明しているという評価を評価カードに記入してもらっている。</p>	<p>発表について自己評価カードの「発表のときにどのような工夫を行ったか」という評価項目に対し、<u>工夫した内容を具体的に記入している。</u>また、他の生徒からの評価（とてもよいがA、普通がB、努力を要するがC）でAと記入されている。</p>	<p>どのような関心から追究すべき課題を設け、どのような資料を用いどのような方法で追究し、何を考え自分はどのような結論を出したのか、発表内容の項目を確認させるとともに、発表原稿の作成方法を助言する。</p>
工 知 識 ・ 理 解	<p>学習の結果理解した内容としてノートに次のことを記入している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の成果が社会生活のすみずみにまで浸透するとともに生命の在り方にまで影響が及んできたこと ・人類の長い歴史を通じて培われてきた生命についての考え方が科学技術の発達によって変化し、生命の在り方にかかわる様々な課題に直面していること 	<p>ノートに、理解した内容として次のことについて、<u>収集した資料の内容を適切に活用しながら具体的に記述している。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の成果が社会生活のすみずみにまで浸透するとともに生命の在り方にまで影響が及んできたこと ・人類の長い歴史を通じて培われてきた生命についての考え方が科学技術の発達によって変化し、生命の在り方にかかわる様々な課題に直面していること 	<p>この単元の学習内容である科学的技術の発展と生命についての考え方を整理させる。</p>
	<p>科学技術の発達と生命の問</p>	<p>ワークシートに、科学技術の発達と生命の問</p>	<p>科学技術の発達と生命の</p>

<p>題を追究する観点として、倫理、社会、文化、政治、経済などの観点があることをワークシートに記入している。</p>	<p>題を追究する観点として、倫理、社会、文化、政治、経済などの観点を含め様々な観点があることを具体的な事例をあげて的確に記入している。</p>	<p>問題を追究するためにどのような観点から調べたのかを整理させる。</p>
--	--	--

(注)「努力を要すると判断される」状況(C)と評価される生徒への指導の手だてについては、授業中適宜行ったり、授業後において行ったりする。

5 観点別評価の総括

(1) 重み付けについて

観点別評価を行う際に留意すべき点として、「重み付け」をどうするかということがある。例えば、この現代社会の評価事例では、「関心・意欲・態度」の観点について四つの評価規準を設けているが、この単元で重視されている学習指導のねらいがあれば、それに対応して設定される評価規準に照らして得られる評価結果に重み付けすることなどが考えられる。さらに、評価方法に関しても「重み付け」を取り入れることが考えられる。例えば、各単元で行う評価の方法としては、ペーパーテストによる評価、日常の授業場面における生徒の追究活動や議論の観察、自己評価や生徒の発表内容の分析、ワークシートやレポート及び報告書に書かれた内容の分析など様々なものがある。そこで一つの観点に対して複数の評価方法がある場合は、それぞれの特性に応じてその評価結果に対する「重み付け」を行うことなどが考えられよう。

このように、評価規準と評価方法に関して、その評価結果に対して「重み付け」を取り入れることが考えられるが、この事例では、評価規準と評価方法の「重み付け」を総合して評価を行っているのので、それを具体的に示す。

(2) 重み付けの適用例

< 「関心・意欲・態度」の観点 >

「現代社会」の事例として取り上げた単元「現代に生きる私たちの課題 - 科学技術の発達と生命の問題 - 」の「関心・意欲・態度」の観点については、評価規準の B_1 、 B_2 、 B_3 、 B_4 を重視している。さらに、それぞれの評価規準に対応する評価方法の重み付けを考慮し、総括に反映させる割合を下表のようにまとめた。

学習活動における具体の評価規準					合計
評価方法	ワークシート	観察	ワークシート	ノート	
評価の重み付けの割合	30%	10%	30%	30%	100%

(表中の 印の番号は、上記「4 観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体の評価規準」の番号と同じ)

具体的には、例えば、Gさんが「学習活動における具体の評価規準」(以下、評価規準と略)の B_1 、 B_2 、 B_3 、 B_4 がAの評価であった場合の総括は次のとおりである。上表のように考えた重み付けに対応させた各評価規準の比率は、 B_1 : B_2 : B_3 : B_4 = 3 : 1 : 3 : 3 となり、この比率に応じた集計を行う。Gさんの評価結果をこの比率に当てはめると B_1 が3個、 B_2 が1個、 B_3 が3個、 B_4 が3個となる。これを集計するとAが3個、Bが4個、Cが3個となる。

この集計結果に対して、事前に「Aが全体の6割以上を占める場合この観点の総括をA、Cが全体の6割以上を占める場合をCとし、それ以外の場合をBとする。」ことが妥当と考えていたため、本単元におけるGさんの「関心・意欲・態度」の評価結果は「おおむね満足」(B)となった。

他の3観点も同様の方法で評価を考慮することができるので、以下の観点については重み付けだけについて述べることにする。

< 「思考・判断」の観点 >

「思考・判断」の観点では、評価規準の C_1 、 C_2 、 C_3 を重視している。さらに、それぞれの評価規準に対応する評価方法の重み付けを考慮し、総括に反映させる割合を下表のようにまとめた。また、この「現代社会」の「現代に生きる私たちの課題 - 科学技術の発達と生命の問題 - 」の事例では評価方法として取り上げてはいないが、例えば、授業で扱わなかった資料等を用いて思考・判断させるようなペーパーテストによる評価結果に対する重み付けを、他の評価方法から得られる評価結果に比べて大きくすることも考えられる。

学習活動における具体の評価規準				合計
評価方法	ワークシート	ノート	報告書	
評価の重み付けの割合	20%	20%	60%	100%

(表中の 印の番号は、上記「4 観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体の評価規準」の番号と同じ)

< 「資料活用の技能・表現」の観点 >

「資料活用の技能・表現」の観点では，評価規準の を重視している。さらに，それぞれの評価規準に対応する評価方法の重み付けを考慮し，総括に反映させる割合を下表のようにまとめた。

学習活動における具体的評価規準						合計
評価方法	資料一覧表	調査カード	報告書	発表	自己評価・他者評価	
評価の重み付けの割合	10%	10%	50%	20%	10%	100%

（表中の 印の番号は，上記「4 観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価規準」の番号と同じ）

< 「知識・理解」の観点 >

「知識・理解」の観点では，評価規準の を重視している。さらに，それぞれの評価規準に対応する評価方法の重み付けを考慮し，総括に反映させる割合を下表のようにまとめた。また，この「現代社会」の「現代に生きる私たちの課題 - 科学技術の発達と生命の問題 - 」の事例では評価方法として取り上げなかったが，例えば，理解内容を幅広くとらえることができるようにしたペーパーテストの評価結果の重み付けを，評価方法から得られる評価結果に比べて大きくすることなども考えられよう。

学習活動における具体的評価規準			合計
評価方法	ノート	ワークシート	
評価の重み付けの割合	40%	60%	100%

（表中の 印の番号は，上記「4 観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価規準」の番号と同じ）

ここでは評価規準および評価方法に重み付けを行い，それをもとに単元ごとの観点別評価の総括を行った例を述べたが，この外にも，様々な考え方や方法があり，各学校において工夫することが望まれる。

倫理

ここでは、「倫理」における内容のまとまりのうち、「現代の諸課題と倫理」に示された課題の中から、「生命」を課題として選択し、取り組まれた事例を紹介する。

単元名 「生命倫理」(6時間)(第1学年1月)

1 単元の目標

- (1) 生命にかかわる倫理的課題に対する関心を高め、それを自己の課題とつなげて意欲的に追究させ、現代に生きる人間としての在り方生き方について積極的に考えようとする態度を養う。
- (2) 生命にかかわる倫理的課題を自己の課題とつなげて多面的・多角的に考察させるとともに、現代に生きる人間としての自己の在り方生き方について広い視野に立って主体的かつ公正に判断させる。
- (3) 生命にかかわる倫理的課題について、関係する諸資料を収集し、自己の課題とつなげて追究する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用させるとともに、課題を追究し考察した過程や結果を図表化したり報告書にまとめさせたり発表や討論など様々な方法で適切に表現させる。
- (4) 現代に生きる人間として、生命にかかわる倫理的課題を自己の課題とつなげて理解させるとともに、人格の形成に生かす知識として身に付けさせる。

2 単元の評価規準

	内容のまとまりごとの評価規準	単元の評価規準	学習活動における具体的評価規準 (評価方法)
ア	現代の倫理的諸課題に対する関心を高め、それを自己の課題とつなげて意欲的に追究し、現代に生きる人間としての在り方生き方について積極的に考えようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・生命にかかわる倫理的課題に対する関心が高まっている。 ・生命にかかわる倫理的課題を自己の課題とつなげて意欲的に追究している。 ・現代に生きる人間としての在り方生き方について考え、倫理的諸課題に積極的に取り組んで生きようとしている。 	<p>学習を通して、生命にかかわる倫理的課題について関心をもったことを示している。(ワークシート)</p> <p>この単元の学習後、現代の倫理的諸課題のうち、さらに調べてみたいと思う関心のあることを課題としてあげ、その理由を示している。(ワークシート)</p> <p>課題を追究する学習計画を立てている。(ワークシート)</p> <p>調査や作業活動を通して、課題を意欲的に追究している。(観察)</p> <p>倫理的諸課題を踏まえて現代に生きる人間としての在り方生き方について、自分の思いを示している。(ワークシート)</p>
イ	現代の倫理的諸課題を自己の課題とつなげて多面的・多角的に考察し、現代に生きる人間としての自己の在り方生き方について広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の諸事象について、倫理的視点から課題を見いだしている。 ・生命にかかわる倫理的課題を自然と人間とのかかわりの視点から、自己の課題とつなげて多面的・多角的に考察している。 ・現代に生きる人間としての自己の在り方生き方について探究し、主体的かつ公正に判断している。 	<p>生命にかかわる倫理的課題について、自己の課題とつなげて具体的な追究課題を見いだすとともに、その課題を追究したい理由を示している。(ワークシート)</p> <p>現代に生きる人間としての自己の在り方生き方について、多面的・多角的に考察し、その内容を示している。(ワークシート)</p> <p>授業で使われなかった資料を基に、生命にかかわる倫理的課題について考察させるペーパーテストの問いに対し、自然と人間とのかかわりの視点に着目して自己の課題とつなげて考察した内容を解答している。(ペーパーテスト)</p> <p>生命にかかわる倫理的課題を、自然と人間とのかかわりの視点から、自己の課題とつなげて考察するとともに主体的かつ公正に判断した内容をまとめている。(報告書)</p>
ウ	現代の倫理的諸課題に関する諸資料を収集し、自己の課題とつなげて追究する学習に役立つ	<ul style="list-style-type: none"> ・生命にかかわる倫理的課題について、関係する資料や先哲などの考え方や生き方に関する資料を様々なメディアを通 	<p>生命にかかわる倫理的課題について、関係する資料や先哲などの考え方や生き方に関する資料を様々なメディアを通して収集しその収集方法と入手先についての一覧表を</p>

活用 の 技 能 ・ 表 現	立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用するとともに、課題を追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ して収集している。 ・ 収集した資料の中から、現代の倫理的諸課題を自己の課題とつなげて追究する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。 ・ 課題を追究し考察した過程や結果を報告書などにまとめたり、発表や討論などを行ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 作成している。(資料一覧表) 生命にかかわる倫理的課題について設定した追究課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、その収集方法と入手先についての一覧表を作成している。(資料一覧表) 課題意識及び学習計画、学習で用いた資料を整理し、課題を追究し考察した過程や結果を発表している。(観察) 課題意識及び学習計画、学習で用いた資料を整理し、課題を追究し考察した過程や結果をまとめている。(報告書) 発表に関する評価活動で、自分の発表において工夫した内容を示している。さらに、他の生徒から分かりやすく発表していると評価されている(発表会用のワークシートの「自己評価」欄・「他者評価」欄)
工 知 識 ・ 理 解	現代に生きる人間としての在り方生き方にかかわる諸課題を自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生命の価値、生と死の問題、他の生命体との共存関係、地球規模での人類の責任など、「生命」について、自然と人間とのかかわりを視点として自己の生き方とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の結果理解した内容として、生命にかかわる倫理的課題について、自然と人間とのかかわりを視点に、どのようにすれば自己のよりよい生き方や人格形成へ生かせるかということについて示している。(ワークシート) 生命の価値、生と死の問題、他の生命体との共存関係、地球規模での人類の責任など生命にかかわる倫理的課題について、理解し、身に付けた知識を問うペーパーテストに適切に解答している。(ペーパーテスト)

3 指導と評価の計画

(1) 授業の流れ

- 第一次「生命倫理にかかわる課題の把握」・・・・・・・・・・(1時間)
- 第二次「課題追究学習のガイダンスと課題設定・追究計画の作成」・・・・・・・・(1時間)
- 第三次「課題追究と報告書作成及び発表準備」・・・・・・・・・・(2時間)
- 第四次「発表・まとめ」・・・・・・・・・・・・・・・・・・(2時間)

(2) 指導と評価の展開例

次 程	ね ら い ・ 学 習 活 動	単元の評価規準との関連	評 価 方 法 等
一次 (1時間 扱い)	<p>ねらい 現代の倫理的課題として例示されている六つの問題のうち、生命又は環境のいずれか、家族・地域社会又は情報社会のいずれか、世界の様々な文化の理解又は人類の福祉のいずれかを選択して取り上げる。そのうちの一つを「生命」とし、生命にかかわる倫理的課題を、自己の課題とつなげて追究させ、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせるため、事例を取り上げ課題を把握させる。</p> <p>・ 先端医療技術の発達が人間の「死の在りよう」に変容をもたらしていることについて考える。</p> <p>< 倫理的課題提示資料例 ></p>	アのイの	呼吸器の取り外しを望む両親、拒む医師、植物状態にある本人それぞれの立場に立って、自分自身の問題として考え、判断し、その論拠を明確化することができたかをワークシートから分析する(関心・意欲)(思

	<p>「呼吸器の生」(新聞記事) 仮死状態で生まれて2歳半になる幼女の人工呼吸器の取り外しを望む両親とこれを拒む病院との対立を報じる記事を読み、両親・医師・本人それぞれの立場で自分なら何を望むか、それはなぜか考える。</p> <p>・生命にかかわる倫理的課題について、ウの 関係する資料や先哲などの考え方や生き方に関する資料を様々なメディアを通して収集する。</p> <p><メディア例> 統計, 年鑑 新聞, 読み物 テレビ, インターネット 等</p> <p><内容例> 人工授精と生殖革命 尊厳死と安楽死 脳死と臓器移植 遺伝子操作とクローン 人間の尊厳と畏敬の念 古代人の自然観, 宗教観や死生観 神の愛や慈悲の教え</p>		<p>考・判断)。</p> <p>生命にかかわる倫理的課題について、収集した資料名と収集した手段、目的、入手先の一覧表を作成させ、事後に分析する(技能)。</p>
<p>二次 (1時間 扱い)</p>	<p>ねらい 「生命」について、(例えば、遺伝子操作、クローン、臓器移植、人工呼吸器など)従来の生命観のみでは対処できない様々な倫理的課題のうち、特に調べたいことを具体的な追究テーマとして設定し、倫理・宗教・哲学・科学・法律などの広い観点から、追究するための学習計画を立てさせる。その際、課題追究の方法についてのガイダンスを行う。</p> <p>・自己の課題とつなげて主体的に追究イの できる課題を見いだすとともに、その課題を追究したい理由をワークシートに記入する。</p> <p>・課題追究のための学習計画を立て、アの ワークシートに記入する。</p> <p>・類似した課題を見いだした生徒同士でグループをつくり、次のことを話し合う。</p> <p><テーマの吟味・検討> テーマ設定の視点はこれでよいか 追究可能で、意義あるテーマであるか</p> <p><資料の検討> 倫理, 宗教, 哲学, 科学, 法律などの幅広い観点から追究するためには、どのような資料が必要か 収集可能な資料はどれか どのような収集方法があるか</p>		<p>生命にかかわる倫理的課題について、自己の課題とつなげて具体的な追究課題(テーマ)を見だし、その課題を追究したい理由をワークシートに記入させ、事後に分析する(思考)。 学習計画をワークシートに記入させ、事後に分析する(意欲・態度)。</p>

<p>三次 (2時間 扱い)</p>	<p>ねらい 生命にかかわる倫理的課題（例えば 遺伝子操作，クローン，臓器移植，人 工呼吸器など）について追究させると ともに，課題追究の過程で調べ方の技 能を身に付けさせる。 ・次のような情報源と方法で追究活動 を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><情報源> 読み物（哲学・歴史・医学・科学 ・法律・経済・文芸など），新聞， 雑誌，作文，日記 美術作品，音楽，映画や演劇 統計，年鑑，白書 テレビ，インターネット 等</p> <p><方法> 文献調査 アンケート 聞き取り調査 インターネット検索 課題追究の方法として適切なもの か，資料が公正なものか等を検討 しながら進める。</p> </div>	<p>アの</p>	<p>調査や作業活動を通した課題追究の様子を 観察する（意欲）。</p>
	<p>・調べた内容を調査カードあるいはコ ンピュータに記録・整理して，その 中から自己の課題とつなげて追究す る学習に役立つ内容を主体的かつ適 切に選択して取り出しまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>< A 課題追究事例と追究の観点 > 死の定義の変容 - 脳死と臓器移植 人工呼吸器の発達が脳死という新 しい死の定義をもたらしたが，死の 定義をめぐる，倫理・宗教・哲学 ・科学・法律・経済など様々な専門 分野にかかわる問題であることに留 意しつつ，自己の課題とつなげて現 代に生きる人間としての在り方生き 方について，多面的・多角的に考察 する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳死と植物状態（医学） ・命の贈与，生態系への参入 （倫理，自然） ・人体の部品化・資源化 ・保険制度及び医療経済 （産業，経済） ・臓器移植をめぐる立法過程 ・自己決定権及び代理行使権 ・信教の自由（法律） ・安楽死と尊厳死 ・SOL (Sanctity of Life) と QOL (Quality of Life) ・インフォームド・コンセント ・リビング・ウィル （社会，法律） ・老いや死の受容及び死生観 </div>	<p>ウの</p>	<p>設定した追究課題にかかわって，収集した 資料名と収集した手段，目的，入手先の一 覧表を作成させ，事後に分析する（技能）。</p>

- (文芸, 心理, 倫理, 宗教)
- ・脳死と臓器移植をめぐる人々の意識調査
 - ・脳死と臓器移植をめぐる国際社会の動向調査 (社会) 等

< B 課題追究事例と追究の観点 >

死ぬ権利をめぐる

- ・アメリカ合衆国で植物状態での人工呼吸器取り外しの是非が争われたカレン事件(1976)の争点の検討を通して, 植物状態での人工呼吸器撤去のもつ意味を追究する。
(観点) 自己決定権, 信教の自由, 尊厳をもって死ぬ権利, 代理行使権などの争点と, 「死ぬ権利」の主張に宗教的な側面があること。
- ・安楽死の議論の経緯と「尊厳死」の考え方を理解し, 「尊厳死」思想の含意を考察する。
(観点) 安楽死と「尊厳死」の考え方を通して, SOLを重視する従来の考え方に 対して, QOLを重視する考え方が登場したこと。
- ・カレン裁判から四半世紀を経て, 自己決定に基づく「死ぬ権利」の変容を, 欧米の事例をもとに追究する。(観点) 積極的安楽死と消極的安楽死の区別が歯止めにならなくなっていること, 「尊厳」の名のもとに, 「死ぬ権利」がエスカレートしていること, その経緯のなかで「末期患者」という前提条件が抜け落ちていること。

< 資料例 >

- ・「死ぬ権利 数百万人が宣言」)
- ・「西独を戦慄させた死」
- ・「尊厳死か殺人行為か, 「自殺装置」の波紋」
- ・John Hardwig 「Is There a Duty to Die?」抜粋

- ・「尊厳ある死」は「生の尊厳」があってはじめて成り立つことを理解し, 「尊厳」という言葉の多義性を考察する。
(観点) 「尊厳ある死」= 延命治療の拒否ではないこと。「生の尊厳」を保障する社会的条件整備(ノーマライゼーション)が不可欠であること。

生命にかかわる倫理的課題を追究した結果を報告書にまとめさせ, 現代に生きる人間としての自己の在り方生き方について考察させる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・生命にかかわる倫理的課題を、自然と人間とのかかわりの視点から、自己の課題とつなげて多面的・多角的に考察し、自分の考え方を報告書としてまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>< 報告書の内容例 > 課題の所在と課題追究の目的 調査方法と調査結果 考察過程 結論（現代に生きる人間としての自己の在り方生き方としての考察） 参考・引用文献／資料名</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・調査や作業活動に取り組んだ際の自分の意欲や関心などの状況を振り返り、その内容を自己評価カードに記入する。 	イの ウの	考察した内容を報告書にまとめさせ、どのような考察・判断を行ったかを事後に分析する(思考・判断)。 報告書の内容を資料活用の在り方やその表現という観点から事後に分析する(技能・表現)。
四次 (2時間 扱い)	<p>ねらい 類似したテーマ（例えば、遺伝子操作の問題など）で一つのグループをつくり、その中で各自が作成した報告書を基に生命にかかわる倫理的課題について考察したことを発表させるとともに、発表内容をもとに話し合わせ、現代に生きる人間としての自己の在り方生き方について考察させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>< グループ例 > 生命操作の技術を考えるグループ 脳死と臓器移植を考えるグループ 安楽死と尊厳死を考えるグループ 生命の意味を考えるグループ</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で、各自課題を追究し考察した過程や結果を報告書を基に発表し、質疑応答や議論を行う。 ・他の生徒の発表内容及び質疑応答や議論を参考にしながら、生命の価値、生と死の問題、他の生命体との共存関係、地球規模での人類の責任など「生命」について、自己の生き方とつなげて理解した内容をワークシートにまとめる。 ・自分の発表や質疑応答についての自己評価、他の生徒の発表や質疑応答についての評価を行う。 ・倫理的諸課題を踏まえて現代に生きる人間としての在り方生き方について自分の思いをワークシートに記入する。 ・この学習の結果、関心をもってさらに調べてみたいと思う現代の倫理的諸課題とその理由をワークシートに記入する。 	ウの エの ウの アの アの	発表の仕方と内容、質疑応答の仕方と内容を分析する（技能・表現）。 学習の結果としてワークシートに記入した内容を事後に分析する（理解）。 発表会用のワークシートの「自己評価」欄と「他者評価」欄を事後に分析する(表現)。 現代に生きる人間としての在り方生き方について、生徒の思いをワークシートに記入させ、事後に分析する（態度）。 今後調べてみたい課題とその理由をワークシートに記入させ、事後に分析する(関心)。
*	ペーパーテストの実施(学習内容に沿って作成した定期テスト)	イの	ペーパーテストで、授業では使用しなかった資料から考察した内容を記述させ、それを分析する(思考)。

		エの	ペーパーテストで、授業で理解した内容、身に付けた知識を確認する(知識・理解)。
--	--	----	---

(注)「指導と評価の展開例」中の 印の番号は、「2 単元の評価規準」の「学習活動における具体の評価規準」の番号と一致している。

参考資料

< 単元「生命倫理」で使用するワークシートの工夫例 >

<p>生命倫理</p> <p style="text-align: right;">年 組 番 名 前 _____</p> <p>倫理的課題提示資料例 < 呼吸器の生 ></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>呼吸器の「生」で対立 仮死で生まれて意識なく2年余 両親 安らかに逝かせて / 病院 娘さん生きている 仮死状態で生まれた後、意識も呼吸する力もないまま、人工呼吸器で二年五ヶ月も命を保つ赤ちゃんの医療をめぐる、両親と国立小児病院の間で深刻な対立が続いている。両親が「娘はもう死んでいるのに機械の力で心臓を動かされている」「娘の人権を踏みにじる呼吸器を外してほしい」と要求するのに対し、病院が「娘さんは生きている」「呼吸器は外せません」と拒んでいるためだ。国内でこういう対立が表面化したのは初めてで、両親は「どうか娘と私たちの立場に立って正しい解決方法を教えてください」と訴えている。 (朝日新聞1987.8.19)</p> </div> <p>1 両親の訴えをどのように思いますか。それはなぜですか。また、もしあなたの家族がこの赤ちゃんのような状態になったとしたら、あなたはどのような措置を望みますか。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; margin: 5px 0;"></div> <p>2 医師の治療方針及び考えをどう思いますか。それはなぜですか。また、もしあなたが医師だとしたら、この赤ちゃんのような状態の続く患者にどのような立場をとりますか。医師の職業上の責任を踏まえて答えなさい。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; margin: 5px 0;"></div> <p>3 もしあなたがこの赤ちゃんのような状態になったとしたら、あなたはどのような措置を望みますか。それはなぜですか。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; margin: 5px 0;"></div> <p>4 生命にかかわる倫理的課題に対して、知っていること・関心をもったことを書きなさい。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; margin: 5px 0;"></div> <p>生命にかかわる倫理的課題について追究したい課題を書きなさい。また、なぜその課題を追究したいのか、自己の課題とどのようにつながるのか、その理由を書きなさい。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 5px 0;"> <tr> <th style="width: 30%;">追究したい課題</th> <th>なぜ課題を追究したいのか(自己の課題とのつながり)</th> </tr> <tr> <td style="height: 30px;"></td> <td></td> </tr> </table> <p>人間としての在り方生き方についての生徒の思いをとらえる資料例 < 死の尊厳と尊厳ある生 ></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>資料 西独を戦慄させた死、自らの死の瞬間をビデオカメラに収めた全身マヒ患者の悲痛な訴え(「西独を戦慄させた死」Newsweek, 1988, 4, 7号)</p> <p>3年前まで、イングリッド・フランクは人生を謳歌する28歳の健康な女性で、もう少しで体操教師の資格も取れるところだった。ところが1985年4月16日、彼女は交通事故で首の骨を折ってしまった。病院で意識を回復したとき、彼女の両腕は麻痺し、両足も動かせなかった。 略</p> <p>イングリッドは、死の当日に録音したテープで次のように語っている。</p> </div>	追究したい課題	なぜ課題を追究したいのか(自己の課題とのつながり)			<p>連 関 ア の イ の</p> <hr style="border: 0; border-top: 1px dashed black;"/> <p>イ の</p> <hr style="border: 0; border-top: 1px dashed black;"/> <p>ア の</p>
追究したい課題	なぜ課題を追究したいのか(自己の課題とのつながり)				
	<p>次 程 第 一 次</p> <hr style="border: 0; border-top: 1px dashed black;"/> <p>第 二 次</p> <hr style="border: 0; border-top: 1px dashed black;"/> <p>第 四 次</p>				

「瀕死の動物と同じです。動物なら、射殺してもらえるものを…。」彼女にとって「死とは、光の中へと進むことであり、安らぎを見いだすこと」だったのだ。

資料 星野富弘『愛、深き淵より。』（立風書房、1981）

私は自分の足で歩いている頃、車椅子のひとを見て気の毒にと思った。見てはいけないものを見てしまったような気持ちになったこともあった。私はなんとひとりよがりな高慢な気持ちをもっていたのだろう。車椅子に乗れたことが、外に出られたことが、こんなにもこんなにもうれしいというのに。

幸せってなんだろう。

喜びってなんだろう。

ほんの少しだけれど分かったような気がした。それはどんな境遇の中にも、どんな悲惨な状態の中にもあるということが。そしてそれは一般に不幸といわれているような事態の中でも決して小さくなったりはしないということが。病气やけがは、本来、幸、不幸の性格はもっていないのではないだろうか。病气やけがに、不幸という性格をもたせてしまうのは、人の先入観や生きる姿勢の在り方ではないだろうか。

星野富弘の略歴 省略

- 1 イングリッド・フランクと星野富弘との主張の共通点と相違点を挙げなさい。

- 2 星野富弘は「幸福／不幸」をどのような意味（価値）の基に述べていますか。

- 3 現代に生きる人間としての在り方生き方について、あなたの思いを書きなさい。

- 4 これまで学習したことを基に、現代の倫理的諸課題のうち今後さらに調べてみたいと思う関心ある課題を書きなさい。また、なぜその課題を追究したいのか理由を書きなさい。

今後追究したい課題

課題を追究したい理由

アの

<自己評価カード等の工夫例>
発表時の自己評価カード

自己評価カード

年 組 番 名前

資料を分析した内容を分かりやすく説明できましたか。

はい 普通 いいえ

課題追究した結論を分かりやすく説明できましたか。

はい 普通 いいえ

自分の課題とのつながりを分かりやすく説明できましたか。

はい 普通 いいえ

あなたは発表のとき、分かりやすい説明をするためにどのような工夫を行いましたか。

4 観点別評価の進め方

「おおむね満足できると判断される」状況（B）について設定した「学習活動における具体の評価規準」に照らして、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される具体例及び「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手だての例を以下にまとめた。

「おおむね満足できると判断される」状況（B）について設定した「学習活動における具体の評価規準」に照らして、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される具体例及び「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手だての例を以下にまとめた。

	学習活動における具体の評価規準	「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される具体例(下線部が判断の要点)	「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手だて
ア 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	学習を通して、生命にかかわる倫理的課題について関心をもったことを示している。(ワークシート)	ワークシートに、他の生徒の発表を聞いたり、自分が調べたことをもとにして、 <u>疑問やさらに調べてみたいことを</u> 記入している。	「現代の特質と倫理的課題」及び「現代に生きる人間の倫理」の学習を整理させ、生命にかかわる倫理的課題に対する興味・関心を引き出す。
	この単元の学習後、現代の倫理的諸課題のうち、さらに調べてみたいと思う関心のあることを課題としてあげ、その理由を示している。(ワークシート)	ワークシートに、現代の倫理的諸課題のうち自分とのかかわりがあるもので関心のあることを課題としてあげ、調べてみたい理由として、この単元の学習の成果をさらに発展させた内容を記入している。	この単元全体の学習の要点を整理させ、生徒自らが積極的に現代の倫理的諸課題に取り組んで生きていけるようにその関心を焦点化させる。
	課題を追究する学習計画を立てている。(ワークシート)	ワークシートに、 <u>次の3つの観点を踏まえて、様々な追究方法を取り入れた学習計画を立てている。</u> ・人間の存在や価値について、多面的・多角的に考察し、広い視野に立って判断しようとする。 ・諸事象の関係付けや分析・総合などの思考活動を進め、課題についての理解の深化を図ろうとする。 ・自己とのかかわりに着目して課題を意欲的に追究しようとする。	追究する観点と方法について復習させ、課題を追究する学習として適切な計画を作成できるよう支援し、追究しようとする態度を育てる。
	調査や作業活動を通して、課題を意欲的に追究している。(観察)	学習計画に従って、調査や作業活動を行う中で新たな課題を見付け、さらに調査や作業の <u>範囲を広げながら追究している。</u>	机間指導や事後指導の中で、生徒への助言や励ましを行う。
	倫理的諸課題を踏まえて現代に生きる人間としての在り方生き方について、自分の思いを示している。(ワークシート)	ワークシートに、倫理的諸課題を踏まえていかに生き、いかなる人間になることを目指すのかという自分自身に固有な <u>選択基準ないし判断基準、つまり人生観・世界観ないし価値観を形成しようとする思い</u> を記入している。	これまでの公民科学習や倫理での学習を踏まえて、この単元全体の学習を振り返らせ、生徒自らが人生観、世界観を確立するための手がかりを得させる。
イ 思 考 ・ 判	生命にかかわる倫理的課題について、自己の課題とつなげて具体的な追究課題を見いだすとともに、その課題を追究したい理由を示している。(ワークシート)	ワークシートに、生命にかかわる倫理的課題について、自己の課題とつなげた具体的な課題とともに、その課題を追究したい理由を人間としての在り方生き方と関連させて記入している。	人間の尊厳の根拠を問うことや生命の深遠さに目を向けさせることにより、より深い自覚に立って課題追究できるよう、生徒の関心を焦点化させ

断	<p>現代に生きる人間としての自己の在り方生き方について、多面的・多角的に考察し、その内容を示している。(ワークシート)</p> <p>授業で使われなかった資料をもとに、生命にかかわる倫理的課題について考察させるペーパーテストの問いに対し、自然と人間とのかかわりの視点に着目して自己の課題とつなげて考察した内容を解答している。(ペーパーテスト)</p> <p>生命にかかわる倫理的課題を、自然と人間とのかかわりの視点から、自己の課題とつなげて考察するとともに主体的かつ公正に判断した内容をまとめている。(報告書)</p>	<p>ワークシートに、現代に生きる人間としての自己の在り方生き方について、<u>これまでの公民科学習の内容や他の人の考えなどを生かすとともに、様々な観点から理由を示しながら</u>多面的・多角的に考察し多内容を記入している。</p> <p>授業で使われなかった資料をもとに、生命にかかわる倫理的課題について考察させるペーパーテストの問いに、自然と人間とのかかわりの視点に着目して、<u>生命の価値・愛と性・生と死の問題や他の生命との相互依存関係の問題などの具体的事例を取り上げ</u>、自己の課題とつなげて考察した内容を解答している。</p> <p>報告書に、生命にかかわる倫理的課題を、自然と人間とのかかわりの視点から、<u>生命の価値・愛と性・生と死の問題や他の生命との相互依存関係の問題などの具体的事例を取り上げ</u>、自己の課題とつなげて考察するとともに主体的かつ公正に判断した内容をまとめている。</p>	<p>る。</p> <p>生命にかかわる倫理的課題について、様々な観点からどのようなことが考えられるか具体的な助言を行い、生徒自らが人生観、世界観を確立するための手がかりを得させる。</p> <p>この単元の学習で考察した内容を整理させて、再度ペーパーテストの問題に解答させる。</p> <p>「現代の特質と倫理的課題」及び「現代に生きる人間の倫理」の学習を整理させ、生命にかかわる倫理的課題について、自己の課題を踏まえて関心のある事項を取り上げて考察させる。</p>
ウ 資料 活用 の 技能 ・ 表現	<p>生命にかかわる倫理的課題について関係する資料や先哲などの考え方や生き方に関する資料を様々なメディアを通して収集し、その収集方法と入手先についての一覧表を作成している。(資料一覧表)</p> <p>生命にかかわる倫理的課題について設定した追究課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、その収集方法と入手先についての一覧表を作成している。(資料一覧表)</p> <p>課題意識及び学習計画、学習で用いた資料を整理し、課題を追究し考察した過程や結果を発表している。(観察)</p>	<p>資料一覧表に、生命にかかわる倫理的課題についての<u>適切な資料を</u>、様々なメディアを活用して収集し、<u>学習に役立つ資料として活用しやすいように、適切に分類・整理するとともに</u>、その収集方法と入手先についてまとめている。</p> <p>資料一覧表に、生命にかかわる倫理的課題について設定した追究課題に関する<u>適切な資料を</u>、様々なメディアを活用して収集し、<u>学習に役立つ資料として活用しやすいように、適切に分類・整理するとともに</u>、その収集方法と入手先についてまとめている。</p> <p>発表に、<u>次のような項目が含まれ、かつ、資料から得た情報を適切にまとめ、自分なりの工夫をして分かりやすく発表している。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような課題意識をもったか ・課題追究の計画 ・どのような資料から学習に役立つ情報を得たか ・どのような根拠から、結論を導き出したか ・追究して得た結論が、どのように自己の課題とつながり、どのように現代に生きる人間としての自己の在り方生き方に反映され 	<p>資料収集の方法(図書館の利用方法やコンピュータの操作方法など)や情報源について指導を行うとともに、生命にかかわる倫理的課題に関する諸資料として何があればよいか具体的に想定させる。</p> <p>資料収集の方法(図書館の利用方法やコンピュータの操作方法など)や情報源について指導を行うとともに、課題追究に役立つ諸資料として何があればよいか具体的に想定させる。</p> <p>どのような関心から課題を設け、どのような方法で追究し、何が分かったのか、何が自己の課題とのつながりなのかを再度整理させ、発表内容の要点を確認させるとともに、発表原稿の作成方法の支援を行う。</p>

		るのか	
	課題意識及び学習計画，学習で用いた資料を整理し，課題を追究し考察した過程や結果をまとめている。(報告書)	報告書に，次のような項目が含まれ， <u>適切な項目立てをして報告書の内容を構成し，図表などを効果的に活用するなど，自分なりの工夫をして分かりやすくまとめている。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような課題意識をもったか ・課題追究の計画 ・どのような資料から学習に役立つ情報を得たか ・どのような根拠から，結論を導き出したか ・追究して得た結論が，どのように自己の課題とつながり，どのように現代に生きる人間としての自己の在り方生き方に反映されるのか 	どのような関心から課題を設け，どのような方法で追究し，何が分かったのかを再度整理させ，自己の課題とつなげて短い文章でまとめさせるとともに，報告書の作成方法の支援を行う。
	発表に関する評価活動で，自分の発表において工夫した内容を示している。さらに，他の生徒から分かりやすく発表していると評価されている(発表会用のワークシートの「自己評価」欄・「他者評価」欄)	「自己評価」欄の「発表のときにどのような工夫を行ったか」という評価項目に対し，工夫した内容を <u>具体的に</u> 記入している。さらに，他の生徒からの評価(「とてもよい」がA，「普通」がB，「努力を要する」がC)でAと記入されている。	どのような関心から課題を設け，どのような方法で追究し，何が分かったのか，何が自己の課題とのつながりなのかを再度整理させ，発表内容の要点を確認させるとともに，分かりやすい発表にするための工夫の仕方について支援を行う。
工 知 識 ・ 理 解	学習の結果理解した内容として，生命にかかわる倫理的課題について，自然と人間とのかかわりを視点に，どのようにすれば自己のよりよい生き方や人格形成へ生かせるかということについて示している。(ワークシート)	ワークシートに，学習の結果理解した内容として，生命にかかわる倫理的課題に関する次のことについて， <u>これまでの公民科学習の内容を生かしながら，自然と人間とのかかわりを視点に，具体的な自己の課題とつなげて的確にまとめている。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子操作，クローン，臓器移植，人工呼吸器など近年の生命科学や技術の進展に伴い，従来の生命観のみでは対処できない様々な問題が生じている。 ・生命の価値や生と死などの問題は倫理・宗教・哲学・科学・法律など様々な専門的分野に広くかかわる問題である。 ・人間の生命は自然の生態系の中で，他の生命との相互依存関係において維持されている。 ・在るべき生命観のとらえ方として，人間中心の生命観にとどまることなく，他の全ての生命体との調和的な共存関係を大切にする必要がある。 	これまでの既習内容，特に「現代に生きる人間の倫理」の学習を踏まえて，この単元の学習内容を整理させ，自己の課題とつなげて生命にかかわる倫理的課題の要点や特色をまとめさせる。
	生命の価値，生と死の問題，他の生命体との共存関係，地球規模での人類の責任など生命にかかわる倫理的課題について，理解し，身に付けた知識を問うペーパーテストに適切に解答している。(ペーパーテスト)	ペーパーテストに，学習の結果理解した内容として， <u>生命にかかわる倫理的課題の要点や特色を，生命の価値，生と死の問題，他の生命体との共存関係，地球規模での人類の責任の問題などの多様な観点から具体的な事象をもとに理解し</u> ，その知識を身に付けた解答をしている。	この単元の学習内容を整理して生命にかかわる倫理的課題の要点や特色をまとめさせ，再度ペーパーテストの問題に解答させる。

(注)「努力を要すると判断される」状況(C)と評価される生徒への指導の手だてについては，授業中適宜行ったり，授業後において行ったりする。

5 観点別評価の総括

(1) 重み付けについて

観点別学習状況の評価を行う際には、評価規準及び評価方法によって重み付けを考慮することが考えられる。すなわち、その単元における学習指導のねらいのうち、重視しているものがあるならば、その実現状況を評価しようとする規準に基づいて得られる評価結果に重み付けを行うことが考えられる。さらに、評価方法に関しても重み付けを取り入れることが考えられる。

例えば、各単元で行う評価の方法としては、ペーパーテストによる評価、日常の授業場面における生徒の学習活動の観察、生徒が作成した作品の分析、生徒の発表内容の分析、アンケートやワークシート、報告書に書かれた内容の分析など様々なものが考えられる。そこで一つの観点に対して複数の評価方法がある場合は、それぞれの特性に応じてその評価結果に対する重み付けを考え評価を行うことが考えられる。

ここでは、上述したような評価規準と評価方法による重み付けを総合して評価を行った事例を示す。

(2) 重み付けの適用例

< 「関心・意欲・態度」の観点 >

「倫理」の事例として取り上げた単元「生命倫理」の「関心・意欲・態度」の観点については、「学習活動における具体的評価規準」(以下、評価規準と略)の、
、
、
を重視している。また、本事例では、ワークシートの記入内容の分析から得られる評価結果に対する重み付けを、観察から得られる評価結果に比べて大きくしている。

本事例においては、評価規準の重み付けと評価方法の重み付けを総合して、下表のようにまとめた。

学習活動における具体的評価規準						合計
評価方法	ワークシート	ワークシート	ワークシート	観察	ワークシート	
評価の重み付けの割合	15%	25%	25%	10%	25%	100%

(表中の 印の番号は、上記「4 観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価規準」の番号と同じ)

そこで例えば、Yさんにおいて評価規準の がC、 がA、 がB、 がA、 がAの評価であった場合の総括は次のとおりである。これまで述べてきたような評価規準と評価方法による重み付けを総合的に考慮して、この観点における各評価規準の比率を
：
：
：
：
：
= 3 : 5 : 5 : 2 : 5とした。Yさんの評価結果をこの比率に当てはめて集計すると、 が3C、 が5A、 が5B、
2A、 が5Aとなる。これを集計するとAが12個、Bが5個、Cが3個となる。

この集計結果に対して、事前に「Aが全体の6割以上占める場合この観点の総括をAとし、Cが全体の6割以上を占める場合をCとし、それ以外の場合をBとする」ことを妥当と考えていたので、本単元におけるYさんの「関心・意欲・態度」の評価は「十分満足」(A)となった。

他の3観点も同様の方法で評価を考えることができるので、以下の観点については重み付けだけについて述べることにする。

< 「思考・判断」の観点 >

「思考・判断」の観点において、本事例では、評価規準の、
を重視している。また、思考・判断の全過程を記述させる報告書の内容の分析から得られる評価結果に対する重み付けと、授業で扱わなかった資料等を用いて思考・判断させるようなペーパーテストによる評価結果に対する重み付けを、ワークシートの記入内容の分析から得られる評価結果に比べて大きくしている。

本事例においては、評価規準の重み付けと評価方法の重み付けを総合して、下表のようにまとめた。

学習活動における具体的評価規準					合計
評価方法	ワークシート	ワークシート	ペーパーテスト	報告書	
評価の重み付けの割合	10%	10%	40%	40%	100%

(表中の 印の番号は、上記「4 観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価規準」の番号と同じ)

< 「資料活用の技能・表現」の観点 >

「資料活用の技能・表現」の観点において、本事例では、評価規準の、
を重視している。この単元では、「適切な課題を設けて行う学習を取り入れるなどの工夫を行うこと。」(学習指導要領)が求められていることから、課題追究の過程や結果が記入されている報告書や発表の内容の分析から得られる評価結果に対する重み付けを、他の評価方法・手段から得られる評価結果に比べて大きくしている。

本事例においては、評価規準の重み付けと評価方法の重み付けを総合して、下表のようにまとめた。

学習活動における具体的評価規準						合計
評価方法	資料一覧表	資料一覧表	発表	報告書	自己評価・他者評価	
評価の重み付けの割合	10%	10%	30%	40%	10%	100%

(表中の 印の番号は、上記「4 観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価規準」の番号と同じ)

< 「知識・理解」の観点 >

「知識・理解」の観点において、本事例では、評価規準の を重視している。本事例の場合、理解内容を幅広くとらえることができるようにしたペーパーテストの評価結果の重み付けを、ワークシートの記入内容の分析から得られる評価結果に比べて大きくしている。

本事例においては、評価規準の重み付けと評価方法の重み付けを総合して、下表のようにまとめた。

「知識・理解」の観点における評価規準と評価方法の重み付けの割合（例）			
学習活動における具体の評価規準			合計
評価方法	ワークシート	ペーパーテスト	
評価の重み付けの割合	30%	70%	100%

（表中の 印の番号は、上記「4 観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体の評価規準」の番号と同じ）

ここでは、評価規準と評価方法による重み付けを総合的に行い、それをもとに單元ごとの観点別評価の総括を行った例を述べたが、この外にも、様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれる。

政治・経済

ここでは、「現代日本の政治や経済の諸課題 - 少子高齢社会と社会保障 - 」(内容のまとまりの「現代社会の諸課題」の一部に当たる)を事例として紹介する。

単元名 「現代日本の政治や経済の諸課題 - 少子高齢社会と社会保障 - 」(6時間)(第1学年12月)

1 単元の目標

- (1) 現代日本の諸課題として取り上げた少子高齢社会と社会保障に対する関心を高め、課題を意欲的に追究させ、少子高齢社会と社会保障の課題の望ましい解決の在り方を客観的に考えようとする態度を養う。
- (2) 少子高齢社会と社会保障の課題について政府主導の考え方と自助努力による福祉の考え方を対照させて多面的・多角的に考察させるとともに、課題の望ましい解決の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断させる。
- (3) 少子高齢社会と社会保障の課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、課題の望ましい解決の在り方を考察するのに役立つ情報を主体的に選択して活用させるとともに、課題を追究し考察した過程や結果を口頭や文章で適切に表現させる。
- (4) 我が国が少子高齢社会を迎えて、労働力需給や経済成長など国民経済に大きな影響が出ていることや社会保障費などの財政負担が大きくなっている問題について理解させる。また、政府主導の福祉の考え方と自助努力による福祉の考え方について理解させる。

2 単元の評価規準

	内容のまとまりごとの評価規準	単元の評価規準	学習活動における具体的評価規準
ア	現代日本の諸課題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、望ましい解決の在り方を客観的に考えようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・現代日本の諸課題として取り上げた少子高齢社会と社会保障に対する関心が高まっている。 ・少子高齢社会と社会保障についての課題を意欲的に追究している。 ・少子高齢社会と社会保障の課題の望ましい解決の在り方を客観的に考えようとしている。 	<p>この学習の結果、関心を持ち今後調べてみたい課題とその理由をワークシートに記入している。</p> <p>少子高齢社会と社会保障の課題について具体的なテーマを基に意欲的に追究していることを観察から見とれる。 少子高齢社会と社会保障の課題の望ましい在り方について追究する計画をワークシートに記入している。</p>
イ	現代日本の諸課題を多面的・多角的に考察し、望ましい解決の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会と社会保障の課題について政府主導の考え方と自助努力による福祉の考え方を対照させて、多面的・多角的に考察している。 ・少子高齢社会と社会保障の課題の望ましい解決の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。 	<p>少子高齢社会と社会保障の課題について、具体的な追究課題を見だし、その課題を追究したい理由をワークシートに記入している。</p> <p>少子高齢社会と社会保障の課題の望ましい解決の在り方について、政府主導の考え方と自助努力の考え方を対照させて考察し、それをレポートに記入している。</p> <p>授業では使用しなかった資料をもとに、少子高齢社会と社会保障の課題について考察させるペーパーテストの問いに対し、政府主導の考え方と自助努力の考え方を対照させて解答している。</p> <p>少子高齢社会と社会保障の課題の望ましい解決の在り方について、議論を通して様々な考え方を踏まえ、最終的に判断した内容をワークシートに記入している。</p>
ウ	現代日本の諸課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会と社会保障の課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 	<p>「少子化」「高齢化」や「少子高齢化」がもたらす社会的な影響について述べた諸資料を様々なメディアを通して収集し、資料名と収集した手段、入手先の一覧表を作成</p>

活用 の 技 能 ・ 表 現	を主体的に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢社会と社会保障の課題の望ましい解決の在り方を考察するのに役立つ情報を主体的に選択して活用している。 ・ 少子高齢社会と社会保障の課題の望ましい解決の在り方を追究し考察した過程や結果を口頭や文章で適切に表現している。 	<p>している。</p> <p>自分の発表について自己評価カードに自己評価を記入しているとともに、「発表のときにどのような工夫を行ったか」という設問項目に対し、工夫した内容を記入している。さらに、他の生徒から発表について分かりやすく説明しているという評価を他者評価カードに記入してもらっている。</p> <p>少子高齢社会と社会保障の課題の望ましい解決の在り方について、政府主導の考え方と自助努力の考え方を対照させて追究し考察した過程や結果をレポートに記入している。</p>
工 知 識 ・ 理 解	大きな政府と小さな政府，少子高齢社会と社会保障，住民生活と地方自治，情報化の進展と市民生活，労使関係と労働市場，産業構造の変化と中小企業，消費者問題と消費者保護，公害防止と環境保全，農業と食料問題など，現代日本の政治や経済の諸課題に関する基本的な事柄について理解し，その知識を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 我が国が少子高齢社会を迎えて，労働力需給や経済成長など国民経済に大きな影響が出ていることについて理解し，その知識を身に付けている。 ・ 社会保障費などの財政負担が大きくなっている問題について理解し，その知識を身に付けている。 ・ 政府主導の福祉の考え方と自助努力による福祉の考え方について理解し，その知識を身に付けている。 	<p>「少子化」「高齢化」の社会的影響について理解した内容として，ワークシートに次のことを記入している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来，若年労働力が不足することが予想される。 ・ 将来，生産性を上げない限り経済成長に影響が出てくる可能性が高い。 ・ 将来，社会保障費の負担が増加することが予想される。 <p>政府の主導による福祉の考え方と，自助努力による福祉の考え方について，ノートに次のことを記入している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国民の税負担を多くし政府の施策を通して高水準の福祉国家を実現する。 ・ 国民の税負担を少なくし自己責任と家族・地域社会の協力やボランティアなどにより，よりよい福祉社会を実現する。 <p>少子高齢社会の進展がもたらす社会的影響や政府の主導による福祉の考え方と，自助努力による福祉の考え方について理解し身に付けた知識を問うペーパーテストに解答している。</p>

3 指導と評価の計画

(1) 授業の流れ

- 第一次「少子高齢社会における社会保障の問題」・・・・・・・・・・(2時間)
- 第二次「福祉に対する二つの考え方と社会保障の在り方の追究」・・・・・・・・・・(2時間)
- 第三次「発表・まとめ」・・・・・・・・・・(2時間)

(2) 指導と評価の展開例

次 程	ね ら い ・ 学 習 活 動	単元の評価規準との関連	評 価 方 法 等
一次 (2時間 扱い)	<p>ねらい</p> <p>現代日本の政治や経済の諸課題として例示されている幾つかの課題を紹介し，何を取り上げるか幾つか選択させる。</p> <p>選択して取り上げた「少子高齢社会と社会保障」について，少子高齢社会と社会保障に関する大項目(1)及び(2)の内容</p>		

	<p>を復習し確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大項目(1)及び(2)で学習した社会保障や社会保障制度を充実させるための政治や経済の働きについて教科書やノートを見て確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>< 確認する「事項」例 ></p> <ul style="list-style-type: none"> (1)ア 人権保障と法の支配 (1)ア 望ましい政治の在り方及び主権者としての参政の在り方 (2)ア 財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割 (2)ア 経済活動の在り方と福祉の向上との関連 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・現代日本社会の特質である「少子化」「高齢化」に関連する資料を収集させる。 ・収集した資料をもとに「少子化」「高齢化」とはどのようなことか、また、「少子高齢化」がもたらす社会的な影響について幾つかの観点を設け、その要点をワークシートにまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>< 準備された資料例 ></p> <p>少子高齢化の影響を報じる新聞記事 厚生労働白書 インターネットで調べた関連するコンテンツ 等</p> <p>< 調べる観点例 ></p> <p>労働力需給 経済成長 社会保障費などの財政負担 等</p> </div>		<p>収集した資料名と収集した手段、入手先の一覧表をつくらせ事後に分析する(技能)。</p> <p>「少子化」「高齢化」がもたらす社会的影響についてワークシートに記入させ事後に分析する(理解)。</p>
<p>二次 (2時間 扱い)</p>	<p>ねらい 少子高齢社会における社会保障の課題を見いだして、テーマとして設定し、課題追究させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化が進展する中で社会保障について、社会保険制度を中心に幾つかの視点から課題(テーマ)を見だし、その課題を追究したい理由をワークシートに記入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>< テーマ設定のための視点 ></p> <p>医療 年金 介護 雇用 等</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・類似した課題を見いだした生徒同士でグループをつくり、次のことを話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>テーマの検討 追究可能で、意義あるテーマであるか 資料の検討 必要な資料はどのようなものか 収集可能な資料か</p> </div>	<p>イの</p>	<p>社会保障の課題として追究したい課題(テーマ)を見だし、その課題(テーマ)を追究したい理由をワークシートに記入させ事後に分析する(思考)。</p>

	<p>どのような収集方法があるか</p> <p>ねらい 少子高齢社会における社会保障の在り方について、様々な見方や考え方があることを理解させ、課題追究させる。 ・少子高齢化が一層進む社会において、今後の社会保障の在り方について、政府の主導による福祉の考え方と、自助努力による福祉の考え方があることを、諸外国の事例から読み取り、その内容をノートにまとめる。</p> <p><比較する国の例> 政府主導 スウェーデン デンマーク 自助努力 アメリカ ニュージーランド</p> <p>・次の点についてグループで検討する。</p> <p>テーマの再検討 資料収集や追究方法の検討 ・必要な資料の在処 ・資料収集方法 ・収集した資料を分析するポイント</p> <p>・追究計画を立てワークシートに記入する。 ・社会保障の課題の望ましい解決の在り方について、政府主導の考え方と自助努力の考え方を対照させ、それぞれの考え方の長所と短所の検討を通して追究させる。</p> <p><課題追究例> 国民福祉の向上で求められる公平性や公正さを確保するため国や地方公共団体が行うサービスとしての社会保障の考え方と民間企業に委託し効率性の追求と競争原理を導入した社会保障の考え方を対照させ、それぞれの長所・短所を踏まえて望ましい社会保障の在り方を追究する。</p>	<p>エの</p> <p>アの</p> <p>アの</p>	<p>政府の主導による福祉の考え方と、自助努力による福祉の考え方についてノートにまとめさせ事後に分析する(理解)。</p> <p>課題追究の計画をワークシートに記入させ、事後に分析する(態度)。 追究の様子を観察する(意欲)。</p>
<p>三次 (2時間 扱い)</p>	<p>ねらい 少子高齢社会における社会保障の望ましい在り方について考察させる。 ・各自で第二次で収集した資料をもとに、社会保障の課題の望ましい解決の在り方について政府主導の考え方と自助努力の考え方を踏まえて考察し、自分の考え方をレポートとしてまとめる。</p> <p><レポートの内容例> 課題追究の目的 考察過程</p>	<p>イの</p>	<p>考察した内容をレポートに記述させ事後に分析する(思考)。(社会保障の課題の望ましい解決の在り方について政府主導の考え方と自助努力の考え方を対照させて考察しているかを分析視点とする)</p>

	<p>結論 資料名</p> <p>・グループ内で、自分の考え方をレポートをもとに発表し、議論する。</p> <p><グループ例> 医療問題グループ 年金問題グループ 介護問題グループ 雇用問題グループ 等</p> <p>・グループ内での発表、質疑応答や議論を通してこれまでの自分の考え方を再検討し、社会保障の在り方についての結論を修正した内容をワークシートに記入する。 ・この学習の結果、関心を持ち今後調べてみたい社会保障制度に関する課題とその理由をワークシートに記入する。 ・グループ内の相互の発表内容を参考にしてレポートを修正し、完成させる。</p>	<p>ウの</p> <p>イの</p> <p>アの</p> <p>ウの</p>	<p>発表内容についての自己評価、他者評価を分析する(表現)。</p> <p>議論を通して、社会保障の課題の望ましい解決の在り方について第三次の判断を修正した点をワークシートに記入させ、事後に分析する(判断)。(様々な考え方を踏まえたかどうか、公正さを分析視点とする。) 関心を持ち今後調べてみたい課題とその理由をワークシートに記入させ事後に分析する(関心)。 レポートの内容を事後に分析する(表現)。(追究し考察した過程を表現しているかを分析視点とする。)</p>
*	<p>ペーパーテストの実施(学習内容に沿って作成した定期テスト)</p>	<p>イの</p> <p>エの</p>	<p>ペーパーテストで、授業では使用しなかった資料から考察した内容を記述させそれを分析する(思考)。 ペーパーテストで、授業で理解した内容、身に付けた知識を確認する(知識・理解)</p>

(注)「指導と評価の展開例」中の 印の番号は、「2 単元の評価規準」の「学習活動における具体的評価規準」の番号と一致している。

参考資料

< 単元「現代日本の政治や経済の諸課題 - 少子高齢社会と社会保障 - 」で使用するワークシートの工夫例 >

現代日本の政治や経済の諸課題 - 少子高齢社会と社会保障 -		連 関	次 程	
_____年 組 番 名 前_____				
「少子化」と「高齢化」とはどのようなことか、資料をもとにまとめなさい。				
用 語	内 容			
少子化				
高齢化				
「少子高齢化」がもたらす社会的影響について調べる観点と調べて分かったことを書きなさい。				
調べる観点	調 べ て 分 か っ た こ と			
社会保障の課題を考える視点と追究したい課題を書きなさい。また、なぜその課題を追究したいのかその理由を書きなさい。				
視 点	追 究 し た い 課 題	な ぜ 課 題 を 追 究 し た い の か (理 由)		
課題追究のための学習計画を立ててみよう				
時	月日(曜)	調査のねらい	調査・研究内容	調 査 方 法
社会保障の課題の望ましい解決の在り方について、他の生徒の参考になった考えと、これまでの自分の結論のうち修正した点を書きなさい。				
参考になった考え		自分の結論を修正した点		
これまで学習したことをもとに、今後さらに調べてみたいと思う社会保障の課題にかかわる関心ある課題を書きなさい。また、なぜその課題を追究したいのか理由を書きなさい。				
今後追究したい課題		課題を追究したい理由		

連
関

第
一
次

エ
の

イ
の
第
二
次

ア
の

イ
の
第
三
次

ア
の

< 収集した資料の一覧表 >

資料番号	1	2	3	4			連関	次程
資料名							ウの	第一次
利用したメディア または手段								
目的								
収集した資料の日 付または収集日								

< 自己評価カード等の工夫例 >

A 発表時の自己評価カード

自己評価カード		年 組 番 名前	連関	次程
資料を分析した内容を分かりやすく説明できましたか。	はい	普通	いいえ	ウの 第四次
調べた内容を分かりやすく説明できましたか。	はい	普通	いいえ	
自分の結論を分かりやすく説明できましたか。	はい	普通	いいえ	
あなたは発表のとき、分かりやすい説明をするためにどのような工夫を行いましたか。	<div style="border: 1px solid black; height: 60px; width: 100%;"></div>			

B 発表時の他者評価カード

他者評価カード (さんの発表について)		年 組 番 名前	連関	次程
資料を分析した内容を分かりやすく説明していましたか。	とてもよい	普通	努力が必要	ウの 第四次
調べた内容を分かりやすく説明していましたか。	A	B	C	
課題追究した結論を分かりやすく説明していましたか。	A	B	C	
発表時に分かりやすい工夫を行っていたことで、特に気付いた点はどのような ことがありましたか。	<div style="border: 1px solid black; height: 60px; width: 100%;"></div>			
			総合評価	
			<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; display: inline-block;"></div>	

4 観点別評価の進め方

「おおむね満足できると判断される」状況（B）について設定した「学習活動における具体の評価規準」に照らして、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される具体例及び「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手だての例を以下にまとめた。

	学習活動における具体の評価規準	「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される具体例(下線部が判断の要点)	「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手だて
ア 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	この単元の学習の結果、関心を持ち今後調べてみたい課題とその理由をワークシートに記入している。	ワークシートに、関心のあることを課題としてあげ、調べてみたい理由として、 <u>この単元の学習の成果をさらに発展させた内容を記入</u> している。	この単元全体の学習の要点を整理させるとともに、生徒とのかかわりのある事柄と関連させて関心を焦点化させる。
	少子高齢社会と社会保障の課題について具体的なテーマをもとに意欲的に追究している。	学習計画に従って、少子高齢社会と社会保障について <u>新たな課題を見だし</u> 、さらに調査や作業の <u>範囲を広げながら追究</u> している。	机間指導で生徒への助言や励ましを行う。
	少子高齢社会と社会保障の課題の望ましい在り方について追究する計画をワークシートに記入している。	ワークシートに、社会保障の課題の望ましい解決の在り方を政府主導の考え方と自助努力の考え方を対照させることを含め、 <u>様々な追究過程を想定した学習計画</u> を記入している。	福祉に対する二つの考え方を対照させることについて再度説明し、課題追究の過程をイメージできるように助言し、追究意欲を育てる。
イ 思 考 ・ 判 断	少子高齢社会と社会保障の課題について、具体的な追究課題を見だし、その課題を追究したい理由をワークシートに記入している。	ワークシートに、少子高齢社会と社会保障の課題について医療、年金、介護、雇用等の視点から追究可能な具体的な課題を見だし、 <u>その課題を追究すると何が明らかになるかを考察し</u> 、その内容を記入している。	少子高齢化と社会保障の現状について、再度整理させ、具体的に何を課題として設定できるか考察させる。
	少子高齢社会と社会保障の課題の望ましい解決の在り方について、政府主導の考え方と自助努力の考え方を対照させて考察し、それをレポートに記入している。	レポートに、少子高齢社会と社会保障の課題の望ましい解決の在り方について、 <u>第二次の授業で収集した資料を活用し</u> 、政府主導の考え方と自助努力の考え方の <u>長所と短所を対照させながら</u> 、具体的に考察し、その内容を記入している。	福祉に対する二つの考え方を対照させることについて再度説明する。
	授業では使用しなかった資料をもとに、少子高齢社会と社会保障の課題について考察させるペーパーテストの問いに対し、政府主導の考え方と自助努力の考え方を対照させて解答している。	授業では使用しなかった資料をもとに、少子高齢社会と社会保障の課題について考察させるペーパーテストの問いに対して、提示された資料の内容に政府主導の考え方と自助努力の考え方を当てはめて、 <u>長所と短所を対照させながら</u> 、論理的に考察したことを解答している。	授業で考察した内容を整理させて、再度ペーパーテストの問題を解かせる。
	少子高齢社会と社会保障の課題の望ましい解決の在り方について、議論を通して様々な考え方を踏まえ、最終的に判断した内容をワークシートに記入している。	ワークシートに、少子高齢社会と社会保障の課題の望ましい解決の在り方について、 <u>他の生徒の発表や議論の内容を吟味するとともに</u> 、政府主導の考え方と自助努力の考え方を踏まえ、 <u>自分の考え方を再検討し</u> 、公正な判断をした内容を記入している。	公正に判断するために参考になった考え方、議論の内容を幾つかあげさせ、文章にまとめさせる。
ウ 資	「少子化」「高齢化」や「少子高齢化」がもたらす社会的な影響について述べた諸	作成した一覧表に、「少子化」「高齢化」、また、「少子高齢化」がもたらす社会的な影響について述べた諸資料を新聞記事やインターネット、	資料収集の方法や情報源について再度説明し、課題追究に役立つ諸資料と

料 活 用 の 技 能 ・ 表 現	資料を様々なメディアを通して収集し、資料名と収集した手段、入手先の一覧表を作成している。	インタビュー、電話、FAXなど様々な手段を活用して収集し、学習に役立つ資料として活用できるように適切に分類・整理するとともに、収集方法と情報源についてまとめている。	して何があればよいか具体的に想定させる。
	自分の発表について自己評価カードに自己評価を記入しているとともに、「発表のときにどのような工夫を行ったか」という評価項目に対し、工夫した内容を記入している。さらに、他の生徒から発表について分かりやすく説明しているという評価を他者評価カードに記入してもらっている。	発表についての自己評価を記入しており、かつ「発表のとき、分かりやすい説明をするためにどのような工夫を行いましたか」という評価項目に対し、工夫した内容を具体的に記入している。また、他の生徒からの総合評価（とてもよいがA、普通がB、努力を要するがC）でAと記入されている。	どのような関心から追究すべき課題を設け、どのような資料を用いどのような方法で追究し、何を考え自分はどのような結論を出したのか、発表内容の要点を確認させるとともに、発表原稿の作成方法を助言する。
	少子高齢社会と社会保障の課題の望ましい解決の在り方について、政府主導の考え方と自助努力の考え方を対照させて追究し考察した過程や結果をレポートに記入している。	レポートに次のような内容の項目を含め、様々な項目立てをしてレポートの内容を構成し、かつ、分かりやすく自分なりの工夫を行いつつまとめている。 ・どのような課題意識をもって具体的な追究課題を設定したか ・課題追究の方法 ・どのような資料を分析し学習に役立つ情報を得たか ・政府主導の考え方と自助努力の考え方の長所と短所を対照させて、具体的な課題をとらえているか ・追究して得た結論は何か ・どのような根拠で結論を得たか	どのような関心から追究すべき課題を設け、どのような資料を用い、二つの福祉の考え方を対照させ、何を考え自分はどのような結論を出したのか再度整理させ、短い文章でまとめさせる。
工 知 識 ・ 理 解	「少子化」「高齢化」の社会的影響について理解した内容として、ワークシートに次のことを記入している。 ・将来、若年労働力が不足することが予想される。 ・将来、生産性を上げない限り経済成長に影響が出てくる可能性が高い。 ・将来、社会保障費の負担が増加することが予想される。	ワークシートに、理解した内容として次のことについて、収集した資料の内容や数値データを適切に活用しながら具体的に記入している。 ・将来、若年労働力が不足することが予想される。 ・将来、生産性を上げない限り経済成長に影響が出てくる可能性が高い。 ・将来、社会保障費の負担が増加することが予想される。	この単元で学習した「少子化」と「高齢化」の社会的影響について再度整理させる。
	政府の主導による福祉の考え方と、自助努力による福祉の考え方について、ノートに次のことを記入している。 ・国民の税負担を多くし政府の施策を通して高水準の福祉国家を実現する。 ・国民の税負担を少なくし自己責任と家族・地域社会の協力やボランティアなどにより、よりよい福祉社会を実現する。	ノートに、理解した内容として次のことについて、諸外国の事例や数値データを適切に活用しながら具体的に記入している。 ・国民の税負担を多くし政府の施策を通して高水準の福祉国家を実現する。 ・国民の税負担を少なくし自己責任と家族・地域社会の協力やボランティアなどにより、よりよい福祉社会を実現する。	この単元で学習した政府の主導による福祉の考え方と、自助努力による福祉の考え方を再度整理させる。

<p>少子高齢社会の進展がもたらす社会的影響や政府の主導による福祉の考え方と、自助努力による福祉の考え方について理解し身に付けた知識を問うペーパーテストに解答している。</p>	<p>ペーパーテストで、少子高齢社会の進展がもたらす社会的影響や政府の主導による福祉の考え方と、自助努力による福祉の考え方について、収集した資料の内容や諸外国の事例や数値データをもとに具体的に理解して解答し、その知識を身に付けている。</p>	<p>この単元で学習した少子高齢社会の進展がもたらす社会的影響や政府の主導による福祉の考え方と、自助努力による福祉の考え方について整理させる。</p>
--	---	---

(注)「努力を要すると判断される」状況(C)と評価される生徒への指導の手だてについては、授業中適宜行ったり、授業後において行ったりする。

5 観点別評価の総括

(1) 重み付けについて

「重み付け」については、「現代社会」と同様な考え方に立って評価を行った。ここでも、この単元で重視されている学習指導のねらいがあれば、その実現状況を評価する規準に照らして得られる評価結果に重み付けを行っている。さらに、評価方法に関しても重み付けを取り入れ、一つの観点に対して複数の評価方法がある場合は、それぞれの特性に応じてその評価結果に対する重み付けを行っている。

このように、評価規準と評価方法に関して、その評価結果に対して「重み付け」を取り入れることが考えられるが、この事例では、評価規準と評価方法の「重み付け」を総合して評価を行っているのので、それを具体的に示す。

(2) 重み付けの適用例

< 「関心・意欲・態度」の観点 >

「政治・経済」の事例として取り上げた単元「現代日本の政治や経済の諸課題 - 少子高齢社会と社会保障 -」の「関心・意欲・態度」の観点については、評価規準の ， を重視している。さらに、それぞれの評価規準に対応する評価方法の重み付けを考慮し、総括に反映させる割合を下表のようにまとめた。

学習活動における具体的評価規準				合計
評価方法	ワークシート	観察	ノート	
評価の重み付けの割合	40%	20%	40%	100%

(表中の 印の番号は、上記「4 観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価規準」の番号と同じ)

具体的には、例えば、Sさんが「学習活動における具体的評価規準」(以下、評価規準と略)の がB, がB, がCの評価であった場合の総括は次のとおりである。上表のように考えた重み付けに対応させた各評価規準の比率は、 : : = 4 : 2 : 4 となり、この比率に応じた集計を行う。Sさんの評価結果をこの比率に当てはめると が4B, が2B, が4C, となる。これを集計するとAが0個、Bが6個、Cが4個となる。

この集計結果に対して、事前に「Aが全体の6割以上を占める場合この観点の総括をAとし、Cが全体の6割以上を占める場合をCとし、それ以外の場合をBとする。」と決定しているとき、本単元におけるSさんの「関心・意欲・態度」の評価は「おおむね満足」(B)となった。

他の3観点も同様の方法で評価を考えることができるので、以下の観点については重み付けだけについて述べることにする。

< 「思考・判断」の観点 >

「思考・判断」の観点では、評価規準の ， を重視している。さらに、それぞれの評価規準に対応する評価方法の重み付けを考慮し、総括に反映させる割合を下表のようにまとめた。

学習活動における具体的評価規準					合計
評価方法	ワークシート	レポート	ペーパーテスト	ワークシート	
評価の重み付けの割合	20%	30%	30%	20%	100%

(表中の 印の番号は、上記「4 観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価規準」の番号と同じ)

< 「資料活用の技能・表現」の観点 >

「資料活用の技能・表現」の観点では、評価規準の を重視している。さらに、それぞれの評価規準に対応する評価方法の重み付けを考慮し、総括に反映させる割合を下表のようにまとめた。

「資料活用の技能・表現」の観点における評価規準と評価方法の重み付けの割合（例）				
学習活動における具体的評価規準				合計
評価方法	資料一覧表	自己評価・他者評価	レポート	
評価の重み付けの割合	20%	10%	70%	100%

（表中の 印の番号は，上記「4 観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価規準」の番号と同じ）

< 「知識・理解」の観点 >

「知識・理解」の観点では，評価規準の を重視している。さらに，それぞれの評価規準に対応する評価方法の重み付けを考慮し，総括に反映させる割合を下表のようにまとめた。

「知識・理解」の観点における評価規準と評価方法の重み付けの割合（例）				
学習活動における具体的評価規準				合計
評価方法	ワークシート	ノート	ペーパーテスト	
評価の重み付けの割合	20%	20%	60%	100%

（表中の 印の番号は，上記「4 観点別評価の進め方」の表中の「学習活動における具体的評価規準」の番号と同じ）

ここでは評価方法に重み付けを行い，それをもとに單元ごとの観点別評価の総括を行った例を述べたが，この外にも，様々な考え方や方法があり，各学校において工夫することが望まれる。